

平成12年度

**みのかも文化の森 年報**

Vol. 1



## みのかも文化の森 年報

---







## 目次

|                   |    |
|-------------------|----|
| はじめに              | 1  |
| みのかも文化の森とは        | 3  |
| オープンまでの経緯         | 5  |
| 常設展示              | 7  |
| 常設展示室、生活体験館、民具展示館 |    |
| 企画展               | 10 |
| オープニング関連事業        | 14 |
| ボランティア            | 16 |
| 教育普及              | 20 |
| 学校活用の理念と現状        | 24 |
| 教育センター            | 28 |
| 施設の利用状況           | 30 |
| 広報活動の記録           | 34 |
| 組織図               | 35 |
| 利用案内              | 35 |
| 条例                | 36 |
| 建築概要              | 39 |
| イメージキャラクターについて    | 42 |





## ■はじめに

みのかも文化の森は、博物館・美術館部分の市民ミュージアムと教育センターの複合施設として、平成12年10月にオープンいたしました。

本施設は、構想からオープンに至る十数年の長い年月のあいだ、文化関係の方々はもとより学校教育関係者を交えた、活用に関する検討会を幾度も重ね、ミュージアムの活用方法を検討してきました。折しも、平成14年度からは、新学習指導要領による学校完全週5日制の実施や、総合的な学習の時間が授業に組み入れられることから、文化の森をその受け皿として、学校教育中心の活用をすることとし、文化の森での学習を「授業」としてカリキュラムの中に明確に組み込むという、画期的なソフト先行の施設づくりになりました。

文化の森の特色としては、約9ヘクタールの森に博物館、美術館の本館のほか、生活体験館、民具展示館、実習棟、アトリエ棟等充実した施設を配置するとともに、市内外からの130名余りのボランティアのみなさんに活躍していただいております。見るだけでなく、講座やワークショップ、イベントなどを通じて人と人との交流を深めていただく場所になっています。

美術工芸展示室、企画展示室（市民ギャラリー）では、開館記念展として彫刻家若林奮、大地の芸術家大久保英治、芸術で環境問題に取り組む山口啓介の3氏による「芸術と自然」展を開催し、期間中に若林氏と河合雅雄氏の対談や山口啓介氏のワークショップを開き、人と自然の共生問題について、真剣に考えさせる機会を多くの人々に与えました。

また、本市ゆかりの岡本一平・太郎親子展も大変好評を博し、さらに郷土ゆかりの作家の常設展示や市民のサークル展の開催など、身近な美術館として市民のみなさんに大変よい印象を持っていただきました。

博物館の中心となる常設展示室では、これまで20年以上にわたって収集してきた膨大な資料の中から、自然、歴史、考古などの貴重な資料をテーマ別に展示解説しております。また人物コーナーでは、本市で生まれた2大偉人の坪内逍遙博士と津田左右吉博士を豊富な資料で紹介するとともに、関連イベントとして野外の芝生広場で、坪内逍遙訳のシェークスピア作品「真夏の夜の夢」を上演しました。この野外劇は、東京の劇団と市民が共演し、夜の森にカラフルな照明の効果もあって、幻想的な雰囲気醸し出し、大変好評でした。

生活体験館は、養蚕が大変盛んだった美濃加茂市（現在でも岐阜県下では最多の繭生産量がある）の昭和初期の養蚕民家を復元したものです。生活体験ボランティアやボランティア「伝承料理の会」のみなさんが、「我が家」感覚でこの施設で活動しています。そして、小中学生の学習活動やイベント、また毎日訪れる見学者に、昔の生活や遊びの紹介をし、機織りの講座を指導し、また備え付けの「くど」で薪を焚いてご飯を炊いたり、伝承料理講座を担ったりしております。これらの活動を通して「生きた昔の生活体験」を来場者に伝えるとともに交流を楽しんでいます。

文化の森の特徴的な利用方法としては、はじめにも述べたように学校の総合的な学習での利用があります。

小中学校は、年間計画の中で教科学習や総合的な学習の時間を主として文化の森での学習とし、その時間には文化の森に備え付けの送迎専用バス「ぶんぶんバス」で学校と文化

の森間を往復します（近い学校は徒歩の場合もある）。学校給食も文化の森へ配送できるシステムになっていますが、弁当や伝承料理実習で作った昼食を食べることも選択できます。

学習内容は、「文化の森でしかできないこと」をテーマとし、あらかじめ学校の担任の教師と文化の森の学習係、学芸員の三者が授業のねらいや内容について綿密に打ち合わせをします。そうすることで、学習のねらいをより効果的に達成することができるようにしています。

活動メニューの一部を紹介しますと、常設展示室での自然や歴史、考古の展示資料を基に、美濃加茂市の自然環境や歴史の学習をしたり、美術工芸展示室で本物の芸術作品を鑑賞したり、生活体験館での昔の暮らしや遊びの体験、実習棟での陶工芸作品の制作、森の中での自然観察、情報学習室でのパソコンによる学習など多彩なメニューがあります。また、季節やイベントの時期によってメニューの変化もあり、選択の幅は無限にあるといってもいいほどです。

さらに、この学習を支援してもらっている学習ボランティアの人々との暖かい交流は、ふだん学校や地域で味わえない貴重な体験となって、子どもたちの心に残ります。

教育センターでは、教職員の研修をしたり、不登校の児童・生徒たちを受け入れ、施設を利用して様々な体験をさせたり、ボランティアの人々と接したりすることで気持ちが落ち着き、学校へ復帰できるケアを目標としています。ほとんどの生徒が復帰していきます。

また、教育相談は土日を問わず毎日受け付けており、電話相談や来所相談に応じています。

生涯学習の拠点として位置づけた文化の森は、事業ごとに学芸員が関わり、本物に触れたり体験することを主体に、歴史、自然、芸術文化を理解する心を育むよう努めています。

博物館と学校の機能を併せ持った「博学融合複合施設」として、また「体験の場」、「人と人との交流」、「情報の収集と提供」の三本柱で、今後も広く開放的な施設であるよう心がけています。

オープンからわずか1年半ですが、これまでの歩みを年報として発行させていただきました。今後さらに市民のみなさんに郷土を愛する心を高めていただけるような教育、文化事業を企画していきたいと思っておりますので、関係のみなさんの一層のご指導、ご協力をお願いいたします。

みのかも文化の森

## ■「みのかも文化の森」とは。

みのかも文化の森は、次の4点を理念にしています。

### 自然との共存を目指した「みのかも文化の森」

緑豊かな開かれた「森」です。

「みのかも文化の森」には、広大な森があります。森の中の散策路を歩きながら、小鳥のさえずりや四季おりおりの動植物を楽しむこともできます。すばらしい環境の中でこそ、すぐれた創作活動と豊かな文化を育むことができるのではないのでしょうか。この地域に存在していた自然を大切に、安らぎに満ちた「森」を目指します。

### 学校教育と連携した「みのかも文化の森」

「森の学校」という考え方を持った「森」です。

「みのかも文化の森」には、この地域の文化や歴史的資料、豊かな自然がたくさんあります。それらの素材を生かしながら、様々な体験を通して、より深く幅広く学習できる場、それが文化の森です。

### 市民の参加を中心に考える「みのかも文化の森」

市民と一体、参加型の「森」です。

「みのかも文化の森」では、市民が主人公となって活動をおこなう環境をこれからも整えていきます。市民の自由な発想と自発的な活動による成果こそが「みのかも文化の森」の支えとなり、原動力となると考えます。そのような市民の活動力を支えとしながら、新しい取り組みや企画が生まれてくることを願っています。互いに刺激を与え合い、この地域の教育・文化活動の高まりを目指したいと考えます。

### 地域にねざした「みのかも文化の森」

地域づくりを基本に考えた「森」です。

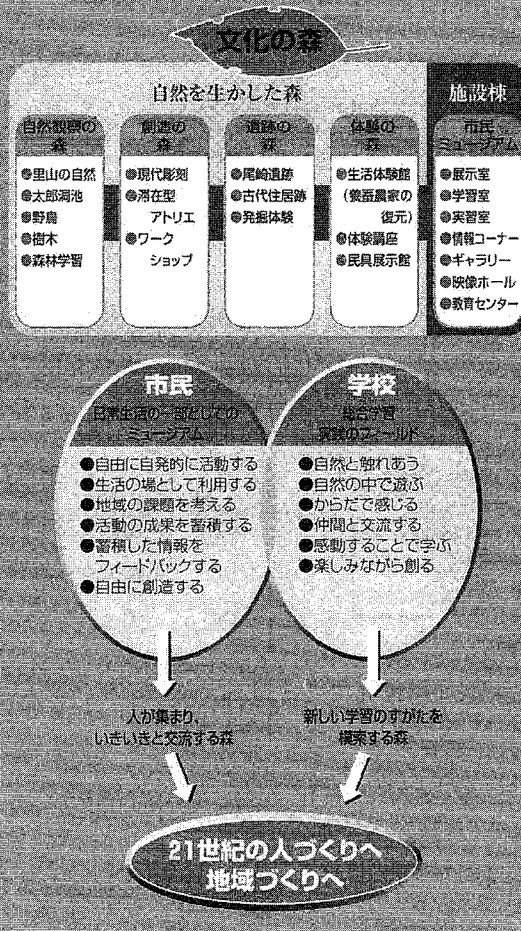
「みのかも文化の森」は市民の日々の生活に密着し、愛されたいと考えています。教育・文化といった限定された枠の中だけでなく、広く地域の人々の生活にある課題を話し合い、理解し合い、共有し合うことのできる場を提供します。地域の人々の生活の向上が、この地域の教育・文化活動のさらなる発展の鍵を握ると考えています。

私たちは、市民一人ひとりの自己実現とともに地域社会の成長・発展も目指しているのです。

# もうすぐみえます。

## 2000年にオープン、21世紀型ミュージアム

「文化の森」の考え方を、図にするとこうなります。



平成 11 年 3 月に発行した リーフレット「文化の森 もうすぐうまれます」より

## ■オープンまでの経過

- 昭和 58 年 3 月 美濃加茂市郷土資料館建設基金条例の制定
- 昭和 61 年 8 月 美濃加茂市史料調査協力員（10 名）を設置
- 昭和 63 年 8 月 （仮称）美濃加茂市郷土資料館建設調査委員会（17 名）を設置
- 平成 元 年 3 月 第 3 次総合計画において「文化の森」「郷土資料館」の建設が位置づけられる。
- 平成 元 年 3 月 美濃加茂市美術品等収集基金条例の制定
- 平成 元 年 8 月 （仮）美濃加茂市郷土資料館基本構想の提言（調査委員会を合計 8 回開催し、理念、目的、性格のほか立地場所、名称などについて提言を受ける。以後専門委員会において具体的検討を進める。）
- 平成 元 年 8 月 （仮）文化の森予定地域の植生調査（1 次）
- 平成 2 年 3 月 （仮）文化の森整備基本構想を策定（セントラルコンサルタント（株））
- 平成 2 年 4 月 社会教育課に博物館建設係を設置（平成 6 年 3 月まで）
- 平成 2 年 5 月 （仮）文化の森構想の地元説明会開催（以後断続的に開催）
- 平成 3 年 3 月 郷土博物館展示基本計画を策定（専門委員会を合計 15 回開催。ほか随時専門委員の指導を得る。（株）日展）
- 平成 3 年 7 月 空中写真測量実施
- 平成 4 年 3 月 （仮）文化の森基本計画策定
- 平成 4 年 4 月 中央公民館内に美濃加茂市教育センターを開設
- 平成 4 年 9 月 地権者との間で「土地賃貸借契約」「物件移転補償契約」を締結
- 平成 4 年 10 月 （仮）文化の森予定地の埋蔵文化財試掘調査（～ 11 月）（北部を除き、ほぼ全域で遺物包含層を確認）
- 平成 4 年 10 月 （仮）文化の森予定地の樹木調査（樹種と分布状況を調査）
- 平成 5 年 3 月 （仮）文化の森（全体）基本設計
- 平成 5 年 12 月 （仮）文化の森予定地域の植生調査（2 次）
- 平成 6 年 3 月 （仮）文化の森（全体）実施設計
- 平成 6 年 4 月 埋蔵文化財（尾崎遺跡）発掘調査開始
- 平成 6 年 11 月 博物館と教育センターの複合施設計画の立案
- 平成 7 年 4 月 「文化課」が新設され、文化の森準備が充実する。
- 平成 7 年 6 月 （仮）文化の森自然環境影響評価調査（平成 6 年 7 月～）（植生、動物、景観、文化財、水質他）
- 平成 8 年 3 月 博物館と教育センター複合施設（（仮）「文化の森プラザ」）設計の予算化
- 平成 8 年 4 月 博物館部門別展示検討委員会開催、以後 7 回開催（自然史、考古、歴史民俗、美術工芸）
- 平成 8 年 6 月 文化の森構想教育センター部会開催（以後 8 回開催）
- 平成 8 年 7 月 （仮）文化の森整備検討委員会（13 名）開催（以後 3 回開催）。（市として「施設の位置づけ」「森の学校」などを提示し、それを受け具体的検討をすすめる。）
- 平成 8 年 11 月 （仮）文化の森市民懇話会の開催（以後、市長と語る会を含め 4 回開催）
- 平成 8 年 12 月 （仮）文化の森プラザ地質調査

- 平成 9 年 3 月 (仮) 文化の森プラザ建築基本設計
- 平成 9 年 3 月 (仮) 文化の森プラザ展示基本設計 (株式会社日展名古屋支店)
- 平成 9 年 7 月 (仮) 文化の森ニュース第 1 号発行 (10 号まで、平成 11 年 11 月)
- 平成 9 年 10 月 「市民のための博物館」講座開催 (4 回、～ 11 月)
- 平成 10 年 3 月 (仮) 文化の森プラザ実施設計
- 平成 10 年 5 月 (仮) 文化の森ボランティアが発足、会員 11 名で、主に歴史民俗の資料調査を中心に活動をはじめ。
- 平成 10 年 6 月 (仮) 文化の森プラザ新築工事契約
- 平成 10 年 7 月 (仮) 文化の森プラザ起工式 (7 月 15 日)
- 平成 10 年 9 月 (仮) 文化の森プラザ展示工事契約
- 平成 10 年 10 月 「ミュージアム自由自在」講座開催 (3 回、～ 11 月)
- 平成 11 年 1 月 ホームページ上に、「今週の文化の森」として、工事の進捗状況、準備状況を報告、公開
- 平成 11 年 1 月 市職員による「文化の森運営検討ワーキング」開催 (2 回)
- 平成 11 年 1 月 美濃加茂市自然史研究会が発足。自然調査活動をすすめる。
- 平成 11 年 3 月 (仮) 文化の森付帯施設工事実施設計
- 平成 11 年 3 月 リーフレット「文化の森もうすぐうまれます」発行
- 平成 11 年 3 月 『みのかも文化の森活用の手引き』第 1 集発行
- 平成 11 年 8 月 (仮) 文化の森付帯施設工事着工
- 平成 12 年 3 月 設置管理条例 (名称を「みのかも文化の森」「美濃加茂市民ミュージアム」「美濃加茂市教育センター」とする。) 制定
- 平成 12 年 3 月 工事完了 (本体建築、電気、管空調、展示、付帯施設)
- 平成 12 年 3 月 『みのかも文化の森活用の手引き』第 2 集発行
- 平成 12 年 5 月 文化の森ボランティアを募集
- 平成 12 年 9 月 コンピュータ機器の設置
- 平成 12 年 10 月 竣工式およびオープニングイベント

## ■常設展示

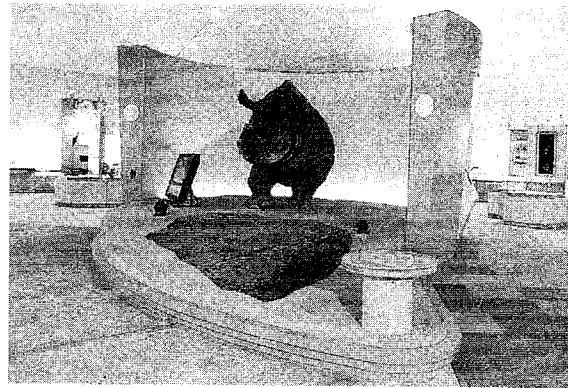
### 1. 常設展示室・川と大地

この部門では、3つの内容から構成されています。

まず、約2億年の歴史をもつ大地の形成の様子を知ることができます。地層や岩石の調査から、当地がまだ海底だった時代、火山活動の活発な時代、盆地と湖の時代、古木曾川や古飛騨川によって形成された地形などの変化を概観していくと、「地球が生きている」ということを実感できます。

そして、およそ1,900万年前にこの地域で生息していたサイやゾウ、ビーバーなどの哺乳動物や淡水魚、化石林などの植物化石に加え映像資料で当時の様相を復元しています。

現代の動植物によって形成されている美濃加茂市の自然を紹介しています。日常生活では見ることの困難な生きものたちの標本やその生活史、生態などです。そして、四季の移り変わりと共に変化する動植物に合わせて、展示替えも行っています。



### 2. 常設展示室・川と文化

この部門では、旧石器時代及び縄文、弥生を経て中世に至るまで、美濃加茂市内各遺跡からの出土品や関連した資料を中心に展示しています。それらは、市域において川とともに暮らした人々、彼らの生活をうかがい知ることのできる資料として貴重です。

貴重です。

関連資料としては、産出地から人によって、あるいは川を介して運ばれた石器素材である「下呂石」や漁網に用いられた錘類をはじめ、旧石器以来の各時代の様相を示す遺物が展示されています。

また、古代のカモ地域においては、多くの寺院や神社があったことが知られており、瓦類が豊富です。

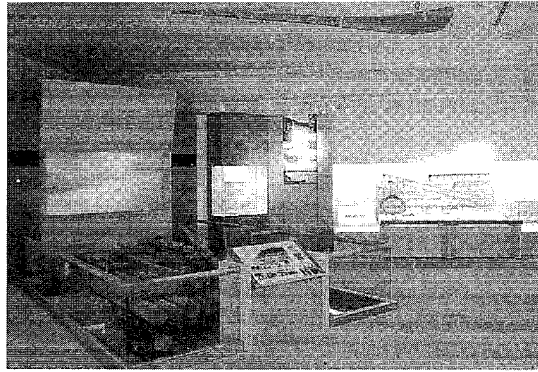
そして中世では、紀年銘のある陶製経筒をはじめ、出土した陶磁器類、文字が墨書された食器などが紹介されています。

映像機器としては、美濃加茂市内の遺跡の状況や発掘調査について調べることのできる「みのかもを考古学しよう」や、市内伊深町から奈良へ向かったことが史実として残る、奴・豊麻呂を通じて古代の歴史学習ができる「豊麻呂の物語」が設置されています。

### 3. 常設展示室・川と道

この部門では、地理的、歴史的に交通の要衝であった美濃加茂を紹介しています。

過去、木曾や飛騨の山々で伐採された木材を運搬するため、河川が用いられていました。その際、木材は綱場において筏に組まれた後、改めて川を下ることになります。美濃加茂市はその中継地としての機能を果たしていました。このような筏流しは昭和初期まで続けられましたが、川のダム建設に伴い、その歴史を閉じることとなりました。



展示室には、失われてしまった筏を復元製作し、見学者がそれに乗りカジを動かすことで、実際の木曾川を川下りしていく雰囲気を感じることができます。それに併せ、かつて使用されたトビザオやトビグチをはじめ木材に押し印等も紹介し、当時の筏流しの様子を現在に伝えています。

その一方で、江戸時代初頭に整備された五街道の一つである中山道において、難所である太田の渡しを控えた重要な宿場町として栄えたのが美濃加茂です。

関連資料の中には「弘化二年太田宿家並絵図」(1845)があります。それをみると、街道沿いに立ち並んだ家々、直角に曲がる枡形の形状や高札場の位置、船頭屋敷等が詳細に記されており、宿場町の隆盛を感じさせます。

### 4. 常設展示・群像美濃加茂

群像美濃加茂では、美濃加茂の偉人である坪内逍遙・津田左右吉の等身大グラフィックパネルが来館者を迎え入れます。ここは逍遙と左右吉と共に、美濃加茂市の文化の発展において貢献した人物を順次紹介するコーナーです。展示は、愛用していた遺品や業績を中心に紹介されています。

展示スペースは、坪内逍遙と津田左右吉が美濃加茂で生まれ育ったということで、卵をイメージしたものになっています。展示場所は、ガラス張りのウォールケースの部分、ビデオブース、パネルと展示ケースの部分から成ります。

逍遙と左右吉の展示は、遺品・業績などの他に、二人の関係を紹介したビデオや二人の関係を示す資料で紹介されています。ビデオは、散歩する逍遙と左右吉が偶然出会うという設定で、お互いを紹介しながら物語が進んでいきます。業績ばかりでなく、ゆかりの地である太田小学校、下米田小学校、蜂屋小学校、早稲田大学などが紹介され、小学校の児童の歌声がとても叙情的な作品となっています。また、別のコーナーにある逍遙の残した日記やハガキなどから二人の関係を知ることができます。

みのかもの先人たちのコーナーは、先人たちが残したものに対し、その業績をたたえ、顕彰するものです。現在紹介しているのは、この地方の風景を撮影した鈴木清次郎、IMF(国際通貨基金)の理事を勤めるなど世界的に活躍した、その息子の鈴木源吾、伊深とその周辺の生活の良さを再確認させた佐野一彦・えんね夫妻、美濃加茂の歴史を調査・研究しまとめた神保朔郎です。これからも多くの先人たちを紹介していきます。

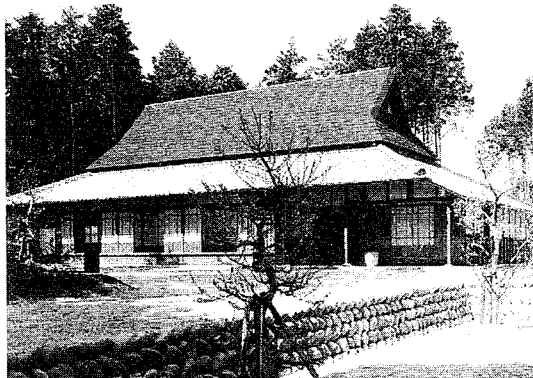


## 5. 生活体験館（まゆの家）

この建物の前身は、明治40年（1907）ごろの蜂屋村村長宅の主屋で、大正時代に深田に移築され、その後現在の中富町の地に再び移築されたものです。

美濃加茂市内の養蚕の民家を復元したこの建物からは、密接に結びついた養蚕と当時の生活のあり方を、随所に垣間見ることができます。

この建物は調査に基づき忠実に復元しつつ、今後も多用途の催しに活用する予定です。今年度は、まゆの家まつりや民具の達人の認定式その他、ハタオリや四季を食べる講座など



の定期講座にも使用されてきました（詳細については、『美濃加茂市文化財調査集録 第3集』（1998年）19頁を参照）。

生活体験館に関わるボランティアには、生活体験ボランティアと伝承料理の会の2つがあり、この場所を中心として活動が積極的に展開されています。学校教育における利用も盛んです。

## 6. 民具展示館

生活体験館に隣接する民具展示館は、養蚕や蜂屋柿、農耕などに関する道具を展示・収蔵する施設です。収蔵部分には、その一部である養蚕・農耕関係の資料を保管しています。展示部分には、養蚕・蜂屋柿・農耕及び畑作・生活資料1930・ホットコーナーの各分野があります。

「養蚕」のコーナーでは主に生産農家の養蚕を対象とし、繭取りまでの過程を紹介しています。生活体験館の説明の補完的役割も果たしています。「蜂屋柿」のコーナーでは、主に生産道具の展示を行っています。本館情報コーナーの映像とあわせて見ると効果的です。「農耕関係」のコーナーでは、現在は稲の収穫後の資料を展示していますが、収穫前あるいは稲作のみならず、今後は畑作も取り上げる予定です。

「時代で読み解く民俗誌」というサブタイトルを持つ「生活資料1930」のコーナーは少し変わった趣きを持っています。昭和5年製造の墨書を持つトワウチが、当時の世相や感慨を細かく伝えることから、この資料を手がかりに、「1930（昭和5年）」の資料にこだわってみました。そこから昭和初年の時代をうかがい知ることを意図しています。

入口正面のホットコーナーでは、順次トピック的に展示替えを行い、今年度は、下駄・土ビナを展示しました。次年度は釣具や洗濯機などを紹介の予定です。この展示室では、パソコンで道具の使い方の解説なども行っており、学校の学習での利用も想定しています。



## ■企画展

美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅰ

芸術と自然ー若林奮・大久保英治・山口啓介ー

美濃加茂自然環境会議2000

### (1) 趣旨

自然は、人間のために存在するものではありません。今日における自然環境問題は、産業革命以後の近代人の自然観、すなわち人と自然のかかわり方や自然の見方が現実社会に反映したものです。人間中心的な価値観を見直さなくてはいけない時期に、私たちは生きています。

芸術家はよく時代の予言者だといわれ、炭鉱におけるカナリヤに例えられます。危険が迫ると、いち早く警告してくれる彼らは、本能的に自然環境の危機に敏感です。無意識に時代の空気を察知する彼らは、その作品や行為に自然環境の危機が叫ばれているものも多く見受けられます。

芸術と自然について、また自然観や環境問題について語り合える「場」として本展は、芸術作品を鑑賞すると同時に、対談・ワークショップなどを通じて、人々に「人と自然と芸術」を考える「場」を提供できればと考え企画した展覧会です。

(2) 会期 2000年10月1日(日)～10月29日(日)

開催日数 25日間

(3) 観覧料 無料

(4) 会場 企画展示室、文化の森内

(5) 主催 美濃加茂市民ミュージアム、「清流と彫刻の街」実行委員会

(6) 後援 美濃加茂市文化団体連盟

(7) 企画協力 加藤義夫芸術計画室

(8) 作品点数 17点

(9) 関連事業

①対談「自然を考える」

(10月21日14:00～16:00／会場：緑のホール／入場料500円)

講師：河合雅雄氏(兵庫県立人と自然の博物館館長)、若林奮氏(彫刻家)

②山口啓介ワークショップ

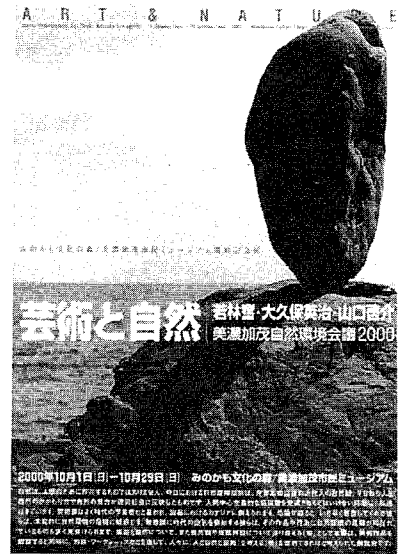
(10月14、15日／エントランスホール／

参加料 無料)

講師：山口啓介氏(美術家)

(10) 図録 『芸術と自然 美濃加茂自然環境会議2000』

B5変型判 88頁



「村絵図と日本図ー古地図から景観が今、よみがえるー」

(1) 趣旨

絵図とは、「絵画的手法によって地物を表現した地図」のことであり、「作成技術の未発達を補うべく、鳥瞰図法などによって絵画的に表現した地図のこと」でもあります(川村博忠『近世絵図と測量術』古今書院、1992年)。こうした絵図は、多様な目的のために江戸時代には各地で製作されました。本展では、西脇村絵図(天保年間)・伊深羽生村水論裁定図(天明年間)などの市内現存の村絵図を出発点に、近世に製作された絵図を紹介しました。そして、日本図や世界図などのさまざまな絵図の種類や測量器具をも展示することで、村絵図の製作意図や近世絵図に見る人々の世界観の広がりにも言及することができました。

なお、期間内に行われたワークショップの反響により、翌年同時期に市内蜂屋小学校において同種のワークショップが実施されるなど、企画展の波及効果が地域にも及んだことは意義深いと思われま



(2) 会期 2000年11月8日(水)～11月19日(日)

開催日数 11日間

(3) 観覧料 一般300円(250円)、小中学生150円(100円)

( )は20名以上団体料金

(4) 会場 企画展示室

(5) 展示点数 31点

(6) 関連事業

①ワークショップ

(11月18日午後13:30-15:00 / 市内 / 参加料無料)

当館学芸員 井戸幸一

村絵図のコピーを片手に現地を歩き、かつての景観の追体験を試みました。

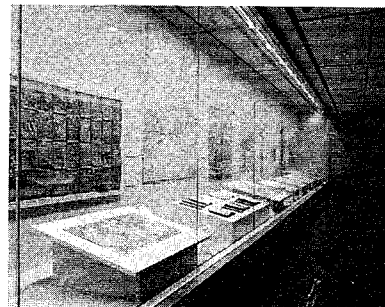
②講演会「江戸時代における地域観」

(11月19日 / 研修室 / 入場無料)

講師：溝口常俊氏(名古屋大学教授)

豊富な図版により、歴史地理学からの絵図利用法を紹介しました。

(7) 図録 『村絵図と日本図』 A4判 6頁



「高島純展」

(1) 趣旨

「自分で話を作って絵を描く場合、描いて気持ちの良い絵にしたいというのがある。こんな絵を描きたいということをまず絵にするから、色から作品を作ってしまうこともあるよ。」「まずは、僕がこれはおもしろいな、と思って作ることが一番だと思っているね。僕がおもしろいんだから、こどももおもしろいだろうと。」(雑誌『chat』2000年12月号 vol.17 より)



高島純展

自分が一番楽しめるものを描くという高島純の思いは、こんな言葉に表れています。

高島は、1983年「だれのじてんしゃ」でボローニャ国際児童図書展グラフィック賞を受賞しました。また、シルクスクリーンによる作品で、バーゼル国際美術展、ニューヨークアートEXPO展に出品しています。

みのかも文化の森の中には、カニサイやネコギギなど高島純によるオリジナルキャラクターがいろんところで活躍しています。人気ある絵本作家・イラストレーターとして活躍する高島純の、ユーモアある画面構成、鮮やかな色調あふれる作品の数々を紹介しました。

(2) 会期 2000年12月8日(金)～12月24日(日)

開催日数 15日間

(3) 観覧料 一般300円(250円) 小中学生150円(100円)

( )は20名以上団体料金

(4) 会場 企画展示室

(5) 作品点数 130点 (シルクスクリーン 54点、絵本等原画 76点)

(6) 関連事業

① 講演会「イメージを語る」

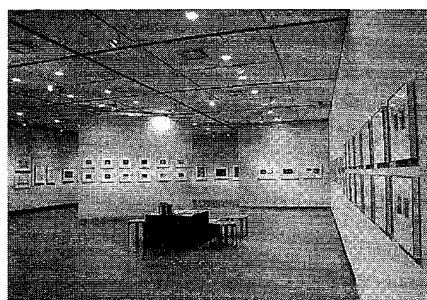
(12月9日 11:00～12:00 / 緑のホール / 入場無料)

講師：高島純氏(絵本作家)

② 講座「クリスマスカードを作る」

(12月17日 13:30～16:00 / エントランスホール / 参加料300円)

講師：高島純氏(絵本作家)

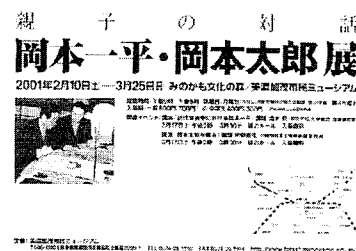


美濃加茂市民ミュージアム開館記念展Ⅳ

親子の対話 岡本一平・岡本太郎展

(1) 趣旨

近代漫画のパイオニアとして知られた岡本一平は、鋭い描写で社会や政治を描き、近代漫画を切り開きました。昭和21年、美濃加茂市古井町へ転居し、昭和23年10月の死に至るまでのおよそ2年間を美濃加茂で過ごし、漫俳(まんぱい)を創始するなどこの地方に文化的影響を与えました。一方、岡本太郎は、一平の子として生まれ、「全存在が芸術だ」として猛烈に生き抜き、社会的にも大きな足跡を残しました。個性ほとばしる二人の世界の一端を「親子の対話として」紹介しました。



(2) 会期 2001年2月10日(土)～3月25日(日)

開催日数 37日間

(3) 観覧料 一般 800円(700円) / 小中学生 400円(300円)

( ) は、20名以上の団体料金

(4) 会場 企画展示室、美術工芸展示室

(5) 作品点数 62点 (岡本一平作品 15点 岡本太郎作品 47点)

(6) 関連事業

① 講演会「近代漫画史における岡本一平」

(2月17日(土) 14:00～15:30 / 緑のホール / 入場無料)

講師：清水勲氏(漫画研究家、帝京平成大学教授)

② 講演会「岡本太郎を語る」

(3月17日(土) 14:00～15:30 / 緑のホール / 入場無料)

講師：仲野泰生氏(川崎市岡本太郎美術館学芸員)

③ ビデオ上映会

(2月10、11日 3月10、11日 各回とも 13:00～15:00 / 緑のホール / 入場無料)

※ 上映ビデオ「岡本太郎の芸術 ～その生命の奔流～」

「挑み 生きる 岡本太郎の生涯」

「岡本太郎の宇宙」

「太郎・感動を語る～芸術家・岡本太郎が出会ったもの～」

(7) 図録 『親子の対話 岡本一平・岡本太郎展』 A4判 40頁



## ■オープニング関連事業

みのかも文化の森は、平成12年（2000年）10月1日にオープンしました。オープンを記念した様々な催しが開催されました。

### 1. オープニングセレモニー

とき 平成12年10月1日（日） 10:00～

ところ 芝生広場

「森の豊穰祭」と題して、歌や語り、彫刻、演劇など多彩な文化がいつせいに芽を吹くアートな一日を、来賓、市民約500人が出席し祝いました。

セレモニーは、美濃加茂少年少女合唱団と朗読グループによるコーラスと朗読でオープニング。続いて、森のタワーから市消防音楽隊によるファンファーレに合わせ、絵本作家高島純さんデザインのアートフラッグを披露しました（写真右上）。

最後に、市長、来賓、市民代表から「楽しみながら学び、交流できる場に」と文化の森にかけるメッセージが寄せられました。

また、下記関連イベントを実施しました。

「芸術と自然」展

伝承料理の試食、機織り等の実演

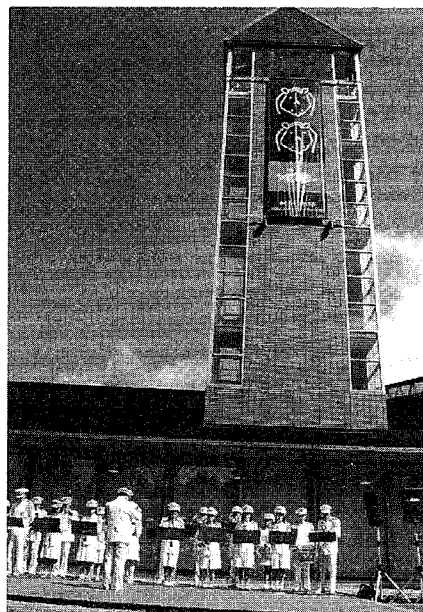
姉妹都市ダボ市とのメール交換

「ぶんぶんバス」発着セレモニー

市民制作の舗道ブロックの披露

管弦楽デュオ「アート・オブ・ストリングス」コンサート

野外劇「真夏の夜の夢」の上演



オープニングセレモニーの様子

### 2. 野外劇「真夏の夜の夢」

とき 平成12年10月1日（日） 18:00～

ところ みのかも文化の森（屋外特設ステージ）

演目 「真夏の夜の夢」シェークスピア作・坪内逍遙訳

演出等 舞台指導に根本嘉也氏、企画菊池明氏、総演出久野一之氏ほか

みのかも文化の森のオープンを記念して演劇「真夏の夜の夢」が上演されました。演劇「真夏の夜の夢」は、シェークスピア作・坪内逍遙訳の作品で、シェークスピアの作品を得意とする劇団近代座と地元の出演者によるワークショップ形式の演劇です。

舞台は野外に設置され、時間や場所をうまく利用した形の演出になっていました。来館者は、夜の文化の森の演出により、ゆめのようなひとときを過ごしました。

### 3. 山口啓介ワークショップ（「芸術と自然」展関連イベントとして開催）

と き 10月14日（土）・15日（日）13:00～16:00

ところ エントランスホール（参加料 無料）

講 師 山口啓介氏

参加者 2日間で205名

「芸術と自然」展において、山口啓介氏は「美濃加茂の箱庭」と題したカセットプラントを制作し展示しました。主催者は、来館者に同様の素材を提供し、単に展示室における作品を鑑賞するだけでなくワークショップとして山口氏とともに一つの作品をつくることを試みました。

カセットケースに身近な植物を入れてアラビアゴムで定着させ、館内ガラス窓に展示しました（使用カセットケース1677個）。自然の美しさを感じるとともに、人と自然と芸術を考えることを目的としました。

### 4. ケロポンズ親子コンサート

と き 平成12年10月19日（木）13:30～15:00

ところ 芝生広場（入場無料）

参加者 400名

「親子コンサート実行委員会」（代表：榊間月絵、18名）に委託して実施。ケロポンズ（2名、事務所：茅ヶ崎市）により、芝生広場で歌やパネルシアターなどを楽しみました。

### 5. 趣味の園芸フェア

と き 平成13年1月28日（日）13:00～15:20

ところ エントランスホール（入場無料）

このイベントは、「花と緑を通じた人々のふれあいの場を提供し、自然豊かな潤いのある生活、地域づくりを提案する。」ことを目的に行いました。

当日は、県内外から会場に入りきれないほど多数来館いただき、大変盛況でした。

内容

- ①「NHK 趣味の園芸」の収録 テーマ／早春の寄せ植えを楽しむ
- ②趣味の園芸相談会
- ③園芸バラエティショー「紙切り芸」／林家正楽師匠
- ④チャリティーオークション

## ■みのかも文化の森・ボランティア

みのかも文化の森では、2000年10月のオープン当初から、多くの方にボランティアの活動をお願いしています。

「文化の森で何かしたい」という気持ちを抱きながらのボランティアの活動は、来館者と文化の森をつなぐ重要なパイプであり、文化の森の大きな特徴になっています。

### 1. 目的

- ①文化の森と来館者および地域の人々との橋渡しの役割を果たしてもらい、より親しまれる文化の森とするため。
- ②多様な経験や技術、柔軟な発想などを文化の森の事業や運営に生かし、利用者のサービスを充実していくため。
- ③市民の皆さんの自発的な学習の場と社会還元の場として文化の森を有効に利用してもらうため。

### 2. 各ボランティアの活動内容

- ・展示ガイド…主に、常設展示室内にて展示の解説などを行います。
- ・アート…企画展示室・美術工芸展示室内での展示の解説、講座のお手伝いをします。
- ・生活体験…主に生活体験館（まゆの家）・民具展示館において、来場者への解説・講座やイベントでのお手伝いをします。
- ・学習支援…児童・生徒が文化の森で学習する際にお手伝いをします。
- ・伝承料理の会…生活体験館のクドを使い、「四季を食べる講座」でこの地域に伝わる料理を教えています。

※いずれも活動日などについては定めていません。

ボランティアの方々の都合の良い時に活動していただいています。

### 3. その他

資格 18才以上ならどなたでも。経験・性別、美濃加茂市民か否かは問いません。

報酬 無償です。

特典 みのかも文化の森が主催する他館の視察や見学会に参加できます。

企画展等へ団体料金で入場ができます。

活動中、万一の事故に備えて市の負担でボランティア保険に加入いたします。

## みのかも文化の森 ボランティア募集

文化の森オープンにあわせてボランティアを募集します。これは、その運営のために、無料でボランティア活動をしていただく方を募集しています。

- 目的
- ① 文化の森と来館者および地域の人々との橋渡しの役割を果たすため。
  - ② 多様な経験や技術、柔軟な発想などを文化の森の事業や運営に生かし、利用者のサービスを充実していくため。
  - ③ 市民の皆さんの自発的な学習の場と社会還元の場として文化の森を有効に利用してもらうため。

募集対象者 年齢 18歳以上の方

募集期間 2024年10月1日～2025年3月31日

募集場所 文化の森（美濃加茂市）

募集職種 展示ガイド、アート、生活体験、学習支援、伝承料理の会

募集定員 各職種別募集定員は別途募集要項に記載しています。

応募方法 募集要項に記載の応募方法に従って応募してください。

募集要項 募集要項は文化の森のホームページに掲載しています。

お問い合わせ 文化の森のボランティア募集担当までお問い合わせください。

文化の森 美濃加茂市美濃加茂1-1-1

TEL. 074-29-8801

TEL. 074-29-8802

TEL. 074-29-8803

TEL. 074-29-8804

TEL. 074-29-8805

TEL. 074-29-8806

TEL. 074-29-8807

TEL. 074-29-8808

TEL. 074-29-8809

TEL. 074-29-8810

TEL. 074-29-8811

TEL. 074-29-8812

TEL. 074-29-8813

TEL. 074-29-8814

TEL. 074-29-8815

TEL. 074-29-8816

TEL. 074-29-8817

TEL. 074-29-8818

TEL. 074-29-8819

TEL. 074-29-8820

TEL. 074-29-8821

TEL. 074-29-8822

TEL. 074-29-8823

TEL. 074-29-8824

TEL. 074-29-8825

TEL. 074-29-8826

TEL. 074-29-8827

TEL. 074-29-8828

TEL. 074-29-8829

TEL. 074-29-8830

TEL. 074-29-8831

TEL. 074-29-8832

TEL. 074-29-8833

TEL. 074-29-8834

TEL. 074-29-8835

TEL. 074-29-8836

TEL. 074-29-8837

TEL. 074-29-8838

TEL. 074-29-8839

TEL. 074-29-8840

TEL. 074-29-8841

TEL. 074-29-8842

TEL. 074-29-8843

TEL. 074-29-8844

TEL. 074-29-8845

TEL. 074-29-8846

TEL. 074-29-8847

TEL. 074-29-8848

TEL. 074-29-8849

TEL. 074-29-8850

TEL. 074-29-8851

TEL. 074-29-8852

TEL. 074-29-8853

TEL. 074-29-8854

TEL. 074-29-8855

TEL. 074-29-8856

TEL. 074-29-8857

TEL. 074-29-8858

TEL. 074-29-8859

TEL. 074-29-8860

TEL. 074-29-8861

TEL. 074-29-8862

TEL. 074-29-8863

TEL. 074-29-8864

TEL. 074-29-8865

TEL. 074-29-8866

TEL. 074-29-8867

TEL. 074-29-8868

TEL. 074-29-8869

TEL. 074-29-8870



#### 4. 研修

ボランティアとして活動するにあたり、必要な知識や経験を学んでいただくために研修会を行います。ボランティア登録したすべての方を対象とした全体研修と個々の分野のより専門的な知識・経験を得るための個別研修があります。平成12年度中に開催した研修は下記のとおりです。



研修会の様子

##### (1) 全体研修

①平成12年5月27日(土) 第1回研修会「ボランティア説明会」

ボランティアの活動内容や活動方法などについて説明会を行いました。

②平成12年6月20日(火) 第2回研修会「名古屋市徳川美術館での研修」

徳川美術館の展示ボランティアの方からボランティアとして活動するときの心構えなどのお話しを聞き、実際のボランティア活動の様子を見学しました。

③平成12年7月24日(月) 第3回研修会

講演会「ミュージアムにおけるボランティアのあり方」

講師 大堀哲氏(常磐大学教授)

東京都にある国立科学博物館のボランティア活動などを例に挙げ、ミュージアムにおけるボランティアのあり方についてお話しを伺いました。

④平成12年9月9日(土) 第4回研修会

講演会「話し方講座」

講師 高野春廣氏(元NHK解説者)

発声の仕方などについて実践を交えながら教えていただきました。

⑤平成12年12月13日(水) 第5回研修会

講演会「ヨーロッパのエコミュージアムを見る」

講師 糸魚川淳二氏(名古屋大学名誉教授)

美濃加茂市民ミュージアム事業との合同開催による研修会。

ヨーロッパのミュージアムのあり方を学ぶことをとおして、市民ミュージアムのあり方を考える機会となりました。

⑥平成13年1月10日(水)(分野別研修会) 豊田市美術館「常設展示室」

豊田市美術館の「常設展示室」を見学し、豊田市美術館のボランティアとの交流を行いました。

⑦平成13年1月14日(日)(分野別研修会) 一宮博物館「くらしの道具 今と昔」

くらしの道具の展示を見学し、当日開催されていた体験講座を見学しました。

⑧平成13年3月2～3日(金・土) 企画展の展示説明会

開催中の「岡本一平・岡本太郎展」についての展示説明会を開催。

企画展の趣旨や展示内容を理解してもらうことを目的としました。

## (2) 個別研修

### □展示ガイド

|      |                                   |
|------|-----------------------------------|
| 6/17 | 常設展示室の展示についての研修                   |
| 7/15 | 常設展示室の展示についての研修                   |
| 8/19 | 地質・自然史についての研修                     |
| 9/9  | みのかも遺跡見学（為岡遺跡、西脇稻荷塚古墳、火塚古墳を現地見学。） |
| 11/4 | 富田清友遺跡発掘現場見学                      |
| 12/1 | 自然史講習（常設展示室、特にチョウについて。）           |
| 12/1 | 博物館見学（企画展「いにしへの美濃と飛弾」見学、記念講演会参加。） |
| 2/17 | 展示ガイドボランティア反省会                    |

### □アートボランティア

|          |   |
|----------|---|
| 6/10     | 市内彫刻巡り（彫刻シンポジウム制作作品）  |
| 7/19     | 美術工芸展示室説明（収蔵作品を見ながらの勉強会）  |
| 8/24     | オープン記念企画展「芸術と自然」展準備（チラシ・ポスター発送作業）                               |
| 9/8      | オープン記念企画展「芸術と自然」展準備（作品展示のお手伝い）                                  |
| 10月中旬    | オープン記念企画展「芸術と自然」展 展示室にて作品解説・監視                                  |
| 10/14・15 | オープン記念企画展「芸術と自然」展 山口啓介ワークショップのサポート                              |
| 11/7     | アートボランティアの日（第1回）<br>「岡本一平・岡本太郎展」作品勉強会（ビデオ鑑賞など）・クリスマスイルミネーションの計画 |
| 11/21    | クリスマスイルミネーションの計画最終打ち合わせ   |
| 12/2     | アートボランティアの日（第2回）<br>クリスマスイルミネーション取り付け                           |
| 12月中旬    | 「高島純展」展示室受付・監視  |
| 1/16     | アートボランティアの日（第3回）<br>「岡本一平・岡本太郎展」チラシ・ポスター発送作業                    |
| 2/20     | アートボランティアの日（第4回）<br>「岡本一平・岡本太郎展」作品勉強会                           |
| 3/20     | アートボランティアの日（第5回）<br>アートな1日講座－アートボランティアによる企画－の計画                 |

### □生活体験

|       |                       |
|-------|-----------------------|
| 6/23  | 今後の活動予定について打ち合わせ      |
| 7/21  | 夏休み子ども講座の準備           |
| 7/25  | 建築から見た生活体験館（講師：溝口正人氏） |
| 9/22  | 直前活動の打ち合わせ            |
| 12/21 | 大掃除と年末の反省会            |
| 3/31  | 年度末の反省会と次年度の打ち合わせ     |

□学習支援

|      |                      |
|------|----------------------|
| 6/15 | 市立山手小学校見学（ほほえみ参観日参加） |
| 6/21 | 加茂野小学校2年生の学習「むしさがし」  |
| 7/15 | 市立東中学校（ほほえみ参観日参加）    |
| 8/26 | 太郎洞池、民具展示館の学習        |
| 9/18 | 常設展示室の学習             |
| 3/22 | パソコン研修、伝承料理研修        |

□伝承料理の会

|         |                        |
|---------|------------------------|
| 4/20    | まゆの家 完成見学              |
| 5/9     | 食生活改善推進委員の見学に向けて、打ち合わせ |
| 5/24    | くどの初炊き                 |
| 5/29・30 | （食生活改善員の見学日）の準備（道具）    |
| 5/30    | 伝承料理の会総会 五平餅           |
| 6/8     | 9日の準備                  |
| 6/9     | 全員研修（朴葉寿司、朴葉餅 づくり）     |
| 7/4     | 1班研修（押し寿司、梅酒寒天づくり）     |
| 7/25    | 3班研修（流しそうめん、土用餅づくり）    |
| 8/1     | 2班研修（みょうがずし、水まんじゅう）    |
| 8/5     | 代表者会議                  |
| 8/21    | 教育委員会主催事業（おにぎり、味噌汁づくり） |
| 8/22    | 4班研修（山菜おこわづくり）         |
| 8/30    | 代表者会議                  |
| 9/4     | 伝承料理の会の5日の準備           |
| 9/5     | 伝承料理の会研修（赤飯、こんにやくづくり）  |
| 9/12    | 代表者会議                  |
| 9/20.22 | 9/29(美術展オープニング)の打ち合わせ  |
| 9/28    | 全員研修（こんにやくづくり）         |
| 3/10    | 代表者会議                  |
| 3/27    | 伝承料理の会研修会（三州足助屋敷の見学）   |

5. 平成12年度の最終登録数

|        | 展示ガイド | アート | 生活体験 | 学習支援 | 伝承料理 | 全体(のべ) |
|--------|-------|-----|------|------|------|--------|
| 平成12年度 | 11    | 20  | 31   | 21   | 45   | 127    |

※平成12年度の登録人数は、最終の人数です。登録人数は、125名。

重複して登録している方もあります。

## ■教育普及

### 1. みのかも文化の森 開催の講座

#### (1) 各種定期講座

美濃加茂市民ミュージアムでは、事前に受講生を募集して継続的に行う定期講座を開講しています。その分野・内容は多岐に渡り、「陶芸」、「古文書から歴史を学ぶ」、「機織り」等様々です。それらは、ミュージアムならではの内容が企画されています。

平成12年度開講の定期講座は、「陶芸」(4期)、「つるで花かご」、「古文書から歴史を学ぶ」、「遺跡探訪」、「機織り」(2期)、「森の恵み体験」の計10講座です。



機織り講座の様子

#### (2) アートな1日講座

市民ミュージアムに当日訪れた来館者が、気軽に美術関連の体験を行うことができる講座です。当館には、陶芸用の設備やフィールドとしての森に恵まれており、それらに関連したものや企画展とタイアップさせた内容で開講しています。

#### (3) 四季を食べる講座



市民ミュージアムで活動するボランティア「伝承料理の会」と共に当日の来館者が、この地域で伝統的に伝わる四季折々の料理を作り、食べる講座です。各家庭でそれらが作られていた頃を皆で思い出し、話をする事で、懐かしくあるいは新鮮な時間を過ごすものです。

#### (4) ミュージアムトーク

地学、自然史、考古、歴史等の各分野から構成される常設展示室の解説を学芸員が来館者に対して行うものです。一方向の説明ではなく、参加者の疑問に答えながら進めていきます。定期的に行うものと団体見学時に行うものがあります。日本語、英語、ポルトガル語があります。



### 2. 夏休み子ども講座

市民が地域の歴史や自然、文化に目を向け、次世代に受け継がれていくことを願い、児童・生徒の夏休みの期間中に親子参加型の講座を開きました。

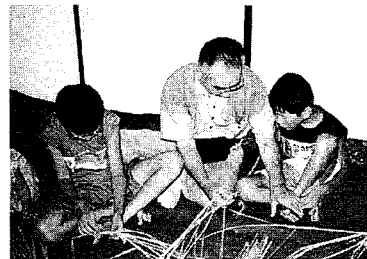
### (1) 『わら・生活文化の再発見』

日時：平成12年8月4日・5日 10:00～14:00

対象：小学生・中学生と保護者

かつて生活全般で用いられた素材である「わら」をテーマとし、俵やワラヅウリの製作について実演及び体験する講座でした。

参加者は、当館に所属する生活体験ボランティアと共に「まゆの家」で互いにふれあいながら製作することができました。



### (2) 『自然観察会 「みんな生きている森の仲間』

日時：平成12年8月7日 9:00～11:30

対象：小学生・中学生と保護者

文化の森は、植林と雑木材の「森」が広がっています。生息する動植物を注意深く観察し、自然に対する理解を深めることを目的に開催しました。

自然観察には、美濃加茂市自然史研究会の方々に協力をいただきました。



### (3) 『考古学ってどんなもの？ -博物館ではどんな仕事をしているの-』

日時：平成12年8月8日 9:00～11:30

対象：小学4～6年生と保護者

当館は「尾崎遺跡」に立地しています。そして、森内には竪穴住居が保存されており、遺跡として良好な景観を残しています。

参加者は遺跡を体感し、そこから出土したものを各自で調査し、展示作業の体験を行うことで、考古学やミュージアムを身近なものとして感じることができました。



## 3. 博物館実習

博物館において、資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる職員が学芸員です。学芸員資格は、国による資格試験もしくは大学で必要な単位を修得することによって取得することができますが、博物館学芸員養成過程をもつ各大学の要請によりミュージアム開館前ながら学生を受け入れ、下記のとおり実習を実施しました。



・期 間 平成12年7月31日(月)～8月4日(金) 9:00～17:00

・受入人員 2名

□実習内容

| 日程       | 午前              | 午後                |
|----------|-----------------|-------------------|
| 7/31 (月) | ガイダンス、館内見学      | 常設展示室概説           |
| 8/ 1 (火) | 博物館資料の取り扱い      | ミニ企画展及び夏休み子ども講座準備 |
| 8/ 2 (水) | ワークショップについて     | 美術資料整理            |
| 8/ 3 (木) | 博物館資料のデータベース作成① | 博物館資料のデータベース作成②   |
| 8/ 4 (金) | 考古資料の取り扱い及び展示作業 | 夏休み子ども講座参加        |

4. その他のイベント

(1) 第1回まゆの家まつり

と き 平成12年11月11日(土)・12日(日) 10:00～15:00

と ころ 生活体験館(まゆの家)

内 容 2日間にわたって、第1回まゆの家まつりが開催されました。生活体験館を会場に、ハタオリやマキワリ、昔の遊びなどの体験を行いました。ボランティア「伝承料理の会」が調理した五平餅なども振舞われました。

(2) ワークショップ「村世界を歩いてみよう」

と き 平成12年11月18日(日) 13:30～15:30

と ころ 美濃加茂市蜂屋町

内 容 村絵図のコピーを片手に蜂屋町の瑞林寺周辺を歩き、かつての景観の追体験を試みました。石仏や昔のなごりなどを再確認することで、歴史に触れ合う時間となりました。

(3) 朗読フェスティバル

と き 平成12年11月11日(土)12日(日)、18日(土)19日(日)

と ころ 緑のホール

※上記以外に11月26日(日)文化会館でも開催

出演者 15グループ(90名)、来場者延べ900名

内 容 平成6年度の逍遙大賞受賞者・加藤道子氏の朗読講座をきっかけに、みのかも「声のドラマ」の会が発足(代表:森優美子)しました。放送表現教育センターの指導で講座を受講し、その成果を発表しました。市外の3つの朗読グループも出演し、交流を深めました。

(4) 『イメージを語る』

と き 平成12年12月9日 11:00～12:00

と ころ 緑のホール

講 師 高島純氏(絵本作家)

内 容 講師として高島純氏(絵本作家)をお迎えし、『イメージを語る』と題して講演いただきました。



ご自身の作品に対する立場や考え方等について、即興のイラストを描きながら、参加者を巻き込む形で楽しく進められました。

(5) ミュージアムフォーラム 「ヨーロッパのエコミュージアムを見る」

と き 平成12年12月13日(金) 13:30～15:30

ところ 緑のホール

講 師 糸魚川淳二氏(名古屋大学名誉教授)

内 容 これからの博物館のあり方の一つに「エコミュージアム」という概念があります。それは地域の人と自然、その歴史を材料にした総合的でダイナミックな博物館を指します。先進地であるヨーロッパの現状報告を受け、美濃加茂市民ミュージアムの今後の活動のあり方も含めて講演がおこなわれました。

(6) 「美濃の弥生時代—西暦1世紀から3世紀の東海地域を考える—」

と き 平成13年1月20日(土) 13:30～15:00

ところ 緑のホール

講 師 赤塚次郎氏(愛知県埋蔵文化財センター)

内 容 講師として赤塚次郎氏をお迎えし、「美濃の弥生時代—西暦1世紀から3世紀の東海地域を考える—」と題して講演いただきました。弥生時代から古墳時代へ至る変革期における美濃及び東海地域の特色について、多くの参加者にわかりやすく解説していただくことができました。

(7) ミュージアムシアター

「ロミオとジュリエット」

と き 平成13年2月3日(土) 14:00～16:00

ところ 緑のホール

内 容 坪内逍遙博士顕彰会が主催となって行われた第1回目のシアター。顕彰会では、坪内逍遙博士の業績を紹介することを目的として、各種の行事を行っています。逍遙博士がシェークスピア作品を完訳したことに因み、シェークスピア原作の映画「ロミオとジュリエット」を上映しました。この映画は、シェークスピアの原作を現代版にアレンジした作品でした。

(8) 公開シンポジウム「インターネットで博物館を利用しよう」

と き 平成13年2月24日(土)・25日(日)

ところ 緑のホール

内 容 教育関係者や博物館関係者と一般を対象にしたシンポジウムを開催しました。講師のテーマ別コメントを交えつつ、文化の森ホームページの批評などもしました。詳細については、井戸幸一「インターネットが開く博物館の未来」(『月刊ミュゼ』第46号、2001年)、及び次のホームページを参照ください。

[http://www2.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/~museum/data/disc/disc\\_04.html](http://www2.spmoa.shizuoka.shizuoka.jp/~museum/data/disc/disc_04.html)

## ■学校活用の理念と現状

### 1 学校教育とみのかも文化の森

#### (1) 小中学校が博物館を利用する意味

第一に、小中学校学習指導要領との関わりです。国の教育の基準となる学習指導要領に博物館の活用が登場するのは平成元年版の社会科です。そこには各学年の指導計画を作成するに当たっての配慮事項として「博物館や郷土資料館等の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などの観察や調査を行う」ようにすることと示されました。このことは、平成14年度から実施される新学習指導要領及び各教科・領域の解説に継承されます。しかも、社会科だけでなく、平成14年度から行われることになる総合的な学習の時間、理科、美術等においても、博物館の記述が認められるようになりました。

第二に、学習の場としての博物館の有効性が挙げられます。学校においては、児童生徒は教師から教科書や各種図書、視聴覚資料等によって学んでいます。美濃加茂市では、教育の場に、博物館(みのかも文化の森)を加えています。博物館には人、自然、文化に関する「本物」が収集・展示されており、それらについて科学的に調査・研究する学芸員がいます。児童生徒は、本物を目にしたり触れたりすることにより、また学芸員から話を聞いたり疑問に答えてもらったりすることにより、学習に対するより高い興味関心を持ち、より深い知識理解を得ることができます。さらにみのかも文化の森には学習係と学習支援ボランティアがおり、チームティーチングにより児童生徒をサポートし、組織的な学習を仕組むことができます。

#### (2) みのかも文化の森がめざしている学習

みのかも文化の森にある様々な資料や学芸員を活かすことによって、幅広い体験学習と深まりのある学習が可能になります。このような学習は、小中学校がみのかも文化の森を計画的・継続的に利用することが前提となります。ここでの学習は、教科学習や総合的な学習の時間のように、学校の年間指導計画(カリキュラム)に位置付いた学習であり、単元の目標を達成するための学習であることが必要です。

学校とみのかも文化の森との連携を密にし、このような学習を各教科・領域の年間計画に基づいた単元目標を達成するための継続的・計画的な授業とするために、みのかも文化の森には学習係が位置づけられます。学習係長は教育委員会学校教育課との兼務であり、教諭がその職に充てられています。学習係は4名で構成され、学校との連絡調整や学習内容の検討、来館した児童生徒の指導等を行っています。その中で最も大切にしているのは、ここでの学習のねらいを共通理解し、学習内容や時間、担任や学習係、学芸員、学習支援ボランティアの役割分担を具体的かつ明確にするための事前打ち合わせです。

### 2 みのかも文化の森における学習効果を上げる手だて

#### (1) T<sub>4</sub>として児童生徒を支援する学習支援ボランティア

みのかも文化の森では展示ガイド、アート、生活体験、伝承料理、学習支援の各ボランティアがそれぞれの活動を支援しています。学校活用においては学習支援ボランティアが見



児童生徒の引率や館内の案内、学習の補助などの支援を行っています。主婦、学生、教員退職者等、21名の登録があり、各自の都合に合わせて活動しています。

#### (2) 学校と森・施設を結ぶ「ぶんぶんバス」

みのかも文化の森は市のほぼ中央に位置しますが、徒歩による来館が可能な学校は1校だけです。そこで、市内の全小中学校の児童生徒が来館するために、みの



かも文化の森専用のバスを用意しました。40人乗りのこのバスは、みのかも文化の森の「ぶん」と蜂のように子ども達が集まって来る様子から、「ぶんぶんバス」と命名されました。ぶんぶんバスは学校とみのかも文化の森間の送迎だけでなく、必要に応じてみのかも文化の森と他の施設間の送迎も行っています。

#### (3) みのかも文化の森で給食が食べられる

みのかも文化の森で終日にわたる学習を行うとき、事前に予約をすることにより、学校と同様みのかも文化の森でも給食をとることができるようにしました。保健所と市給食センターの指導を得て、給食用のワゴン、冷蔵庫、配膳台等を用意しました。衛生面にも十分配慮をしています。

### 3 みのかも文化の森における学習の実際

#### (1) 授業設計

##### ① 学校活用の年間の割り振り

年度末に各学校がみのかも文化の森を利用できる優先日を割り振り、学習係が各学校へ連絡します。この段階で、学習係はみのかも文化の森の各施設を学校が利用できるように手配します。各学校では教務主任が学校の行事予定を考慮し、利用日を調整します。学習係との2回の調整を経て、新年度が始まるまでには各学校の利用日が決定されます。

##### ② 学習活動のねらいと概要を報告

利用日が近づくと、みのかも文化の森でどの教科(領域)でどのような活動を行いたいのか、担任から学習係へ報告があります。その際、学習のねらいをできるだけ具体的に聞くようにしています。

##### ③ 学習活動案(細案)の作成

学校から学習の概略を聞き、学習係が学習活動の細案を作成します。担任の指導を中心としながらも、学芸員や学習係、学習支援ボランティアがどの段階でどのような支援を行うかを明確にします。また、学習のねらいを明確にし、共通理解を図るよう配慮します。

##### ④ 担任と学習係との事前打ち合わせ

授業のおよそ1週間前に担任にみのかも文化の森に来てもらい、細案をもとに学習係と打ち合わせを行います。必要に応じて学芸員が参加することもあります。学習のねらいや内容について、バスの送迎時間、昼食の有無など、学校側とみのかも文化の森側とが共通理解を得られるように、じっくりと話し合うようにしています。

##### ⑤ みのかも文化の森での授業

学校と同様、授業を中心に進めるのは担任です(T<sub>1</sub>)。授業の中に学芸員が入る場合はT<sub>2</sub>となり、学習係がT<sub>3</sub>、学習支援ボランティアがT<sub>4</sub>となってチームティーチングを

行い、より多くの子に目を届かせ、きめの細かい指導が行えるようにしています。

#### 4 平成 12 年度学校活用例

##### (1) はじめに

平成 12 年度の学校活用は「様々な体験活動を中心にした教科の学習や総合学習を、みのかも文化の森ならではの内容を加えて」というコンセプトのもとに展開してきました。ここからは上記のコンセプトをもとに、学習指導要領、各教科の教科書にそった「みのかも文化の森ならではの」の学校活用例を紹介していきます。

##### (2) 学校活用例

###### ①秋みつけ (小学校 1、2 年 生活)

施設内の自然観察の森では、10 月、11 月は小学校低学年を中心にたくさんの児童が来館し、どんぐりや木の葉、木の枝などを採集し「秋みつけ」を行ないました。そして、1 年生ではどんぐりに楊枝を刺した「どんぐりごま」や「やじろべい」、紙コップにどんぐりを入れた「マラカス」などの遊び道具を作って遊ぶ活動を行いました。また、2 年生ではボール紙や画用紙にどんぐりや落ち葉を貼り付け、「壁飾り」や「置物」などを製作しました。



これらの活動を通して自分の身近な植物などの自然とのかかわりに関心を持ち、自然を大切にしたりすることを学習しました。

###### ②昔の暮らし体験 (小学校 2 年 社会)



生活体験館では 1 月、2 月を中心に学校のカリキュラムとリンクさせ、3 年生社会科「昔の暮らし」の体験学習を行なった。この学習ではテーマを昭和 30 年代の「木の文化」に絞りました。

森の中で薪になりそうな木を探し、斧を用いて薪割り体験を行いました。その後、薪を使ってくどで火をたき、この地方の伝統的なお菓子である「ナベヤキ」などを調理しました。そして、燃え残った炭を用いて七輪で餅を焼く活動も行いました。また、洗濯板を使って自分のハンカチを洗濯し、炭火アイロンをかける体験も行いました。

これらの活動を通して、子ども達は地域に古くから残る生活の道具やそれらを使っていたころの暮らしの様子を実感することができました。

###### ③遺跡の学習 (小学校 6 年 社会)

常設展示室と尾崎遺跡を中心に、小学校 6 年生が縄文時代及び弥生時代の学習を行いました。学芸員から解説を聞いたり、実際に森の中で土器片や竪穴式住居跡を探したりしました。また、縄文土器を作る体験も行いま

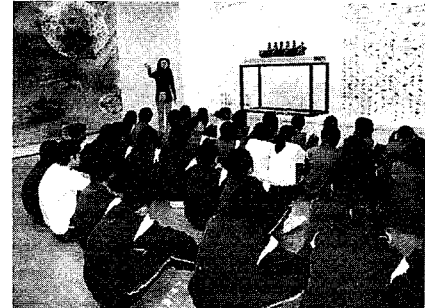


た。

この活動を通じて、実際にみのかも文化の森の敷地内や美濃加茂市内で出土した遺物に触れることができ、自分達の地域の縄文時代及び弥生時代の暮らしに関心を持つとともに、地域の歴史を肌で感じることができました。

#### ④企画展の観賞（小学校5年、6年 図画工作）

美術系の企画展開催時には観賞の学習を行ないました。「芸術と自然展」及び「親子の対話 岡本一平・岡本太郎展」では、学芸員が作品の解説や観賞のポイントの指導を行い、本物の美術作品を観賞することができました。特に「親子の対話 岡本一平・岡本太郎展」では日本を代表する芸術家である岡本太郎の作品を直接目にする事ができ、大変有意義な活動となりました。



### （3）成果と課題

#### （3-1）成果

- ①みのかも文化の森活用委員会の活動や授業をする教師、学習係のアイデアにより、みのかも文化の森ならではの授業を開発することができました。
- ②豊かな自然のある森や博物館の展示・施設を利用した体験学習が実現できました。
- ③本物との出会いにより、児童生徒の興味関心を高め、知識理解を深めることができました。
- ④学芸員、学習支援ボランティア、学習係等、学校では出会うことのできない人との出会いがありました。

#### （3-2）課題

- ①中学校の活用が充分にはできていません。中学校の学習内容にあう展示が少ないことや生徒数が多いため、みのかも文化の森との往復に時間がかかることが原因であると考えられます。今後、選択教科や総合的な学習の時間における課題別グループでの学習や文化系部活動での活用を考えていく必要があります。
- ②みのかも文化の森には学校の授業に活用できる資料がまだまだたくさん眠っています。

これらを発掘し、授業のレパートリーを増やしていきたいと考えます。

現在インターネットを利用した収蔵品の検索システムや学校の担任と学習係がホームページ上でインタラクティブに学習活動案を作成するシステムを構築中です。学校にとってさらに使いやすいみのかも文化の森をめざしていきたいです。

## ■教育センター

### 1. 教育支援

平成12年度は、教育センターが中央公民館から「文化の森」に移転し、新しい歩みを始めた記念すべき年です。今や全国的に不登校児童数は年々増加の傾向にあります。美濃加茂市では、全国平均に比べてその割合は低く、それほど顕著な増加はみられません。しかし、来所相談・電話相談件数は昨年度に比べて増加し、その8割が不登校に関わるものでした。そこで、当センターでは、学校と連携し不登校等の援助を求める児童生徒ならびに保護者との教育相談を積極的に進めてきました。また、適応指導教室「あじさい教室」では、平成11年度に引き続き文部科学省から研究委託を受け、「体験活動を通して集団への適応力をつけるためには」というテーマで、様々な体験活動を計画し実践しました。

#### (1) 教育相談件数及び相談傾向

相談件数は、来所相談87件（前年比9件増）電話相談64件（前年比5件増）の合計 151件でした。小学校時代、いわゆる良い子で過ごしたが、中学校の上学年になって急速に生活に張りをなくし、学習意欲が低下し、登校できなくなる事例が多くみられました。相談者の家族構成は三世帯同居が多く、母親と祖父母との葛藤が、子どもの性格や生活態度に大きな影響を与えています。

#### (2) 不登校生徒数

不登校人数は、年度始めは少なかったが、夏休み明け・体育祭前後・病気で欠席した後に増加がみられました。

#### (3) 適応指導教室「あじさい教室」

学校復帰を目指すためのステップとしての「あじさい教室」は、月・火・木・金の4日間開いています。学校への登校努力日を水・土に設定し、学校とのつながりを切らないように配慮しました。今年度の来室生は25名でした。教室の性格上全員が揃うことはないですが、7～8名の児童生徒が自己選択した活動をして過ごしながら、徐々に自立し活力を蓄えてきました。また、自然体験活動や調理体験



《 夏のデイキャンプ 》

活動を実施し、人やものとのつながりを通して自己回復や集団への適応力を培いました。

#### (4) 学校復帰をめざした支援

- ・来室児童生徒やひきこもり児童生徒の社会性や主体性を培うために、体験活動への参加を呼びかけてきました。
- ・保護者への支援のために「親の会」を7回開催しました。
- ・教育センターと各学校の相談員がお互いに情報交換したり、資質の向上を図るために「相談員研修会」を16回開催しました。



《 相談員研修会 》

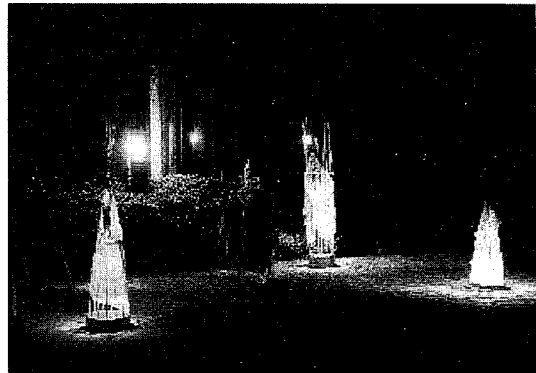
## 2. 研修・研究

平成12年教育センターの運営にあたり留意したことは、「学校現場の要望をつかみ、みのかも文化の森の施設を生かし、学校の活動を援助すること」でした。具体的には、学校では実現しにくいことに応えること、必要としているが得にくい情報を提供すること、場や状況に応じ貸与・設定したりするところを行ってまいりました。また、情報の発信センターとしての役割も大切にまいりました。教育現場にとって、現在必要な情報及び今後必要になるであろう情報などを発信することを目指しました。

以上の2点を柱とし、平成12年度美濃加茂市教育センターの諸事業の計画立案をし、活動をすすめました。

### (1) 研修講座

教育センターでは、新学習指導要領の実施に向けて、主として「総合的な学習の時間」「情報教育」についての研修講座を開設しました。校内研修の場とする学校もあり、多くの教職員の参加がありました。また、「パソコン指導者養成講座」を夏季休業中に実施しました。教職員からの要望で「ADHD」「LD」講座を開設しました。研修内容をより深くするため、シリーズ化を図り、その結果多くの教職員の参加があり、さまざまな技能を高めることができました。



教養講座「お月見コンサート」

また、教養講座としてAETによる英会話、お月見コンサート等、多様な講座を開設し、市民を初めとする多くの方々の参加がありました。

### (2) ひびきあい壁新聞

市内小中学校ではどんな活動が行われているのか、できるだけ多くの市民のみなさんに知っていただくことは、学校教育についての一般的な理解を深める上で重要なことです。その一手段として各学校の活動の様子を写真等で紹介する「ひびきあい壁新聞」を作成し、市役所ロビー、中央公民館ロビー、中央図書館、東図書館、文化の森で展示し、一般市民に紹介しました。

### (3) 教育センター広報「ひびきあい」

学校教育の場のみならず、多くの市民の方々に教育センターの活動、学校教育の現状、学校教育の今後のあり方を積極的に知っていただくために、子どもの姿、学校教育活動と教育センター等の周辺施設の活動などを公開する手段としての「ひびきあい」を発行しています。市役所ロビーや中央公民館などに掲示して、市民にも紹介しました。

### (4) 教材・教具・図書資料の貸し出し

平成12年度は、特に「総合的な学習の時間」「心理検査」に関する図書資料の重点的な整備を行いました。そして、購入図書は、「ひびきあい」を通して各学校に紹介をするとともに、教育センターに関わる様々な活動を通して、図書資料を始め、教育センターが所有する様々な教材・教具・資料等の紹介に努めました。特に、研究室に各種指導案をそろえたため、研究室を利用する多くの教員が研究授業の参考としました。

## ■施設の利用状況

### 1. 月別来館者数

|     | 常設・企画展 | 学校活用  | 教育相談等 | 貸館・講座等 | その他   | 合計     |
|-----|--------|-------|-------|--------|-------|--------|
| ～9月 | 0      | 0     | 815   | 0      | 1,522 | 2,337  |
| 10月 | 13,573 | 1,779 | 262   | 1,664  | 1,375 | 18,653 |
| 11月 | 9,735  | 2,558 | 139   | 2,963  | 1,517 | 16,912 |
| 12月 | 4,750  | 759   | 90    | 1,108  | 1,261 | 7,968  |
| 1月  | 2,133  | 1,090 | 115   | 1,335  | 1,029 | 5,702  |
| 2月  | 5,701  | 1,411 | 133   | 1,684  | 1,042 | 9,971  |
| 3月  | 5,561  | 577   | 68    | 1,412  | 1,104 | 8,722  |
| 合計  | 41,453 | 8,174 | 1,622 | 10,166 | 8,850 | 70,265 |

※「その他」には視察者等を含みます。

### 2. 貸館状況

|           | 10月 |       | 11月 |       | 12月 |     | 1月 |     | 2月 |       | 3月 |       |
|-----------|-----|-------|-----|-------|-----|-----|----|-----|----|-------|----|-------|
|           | 回数  | 人数    | 回数  | 人数    | 回数  | 人数  | 回数 | 人数  | 回数 | 人数    | 回数 | 人数    |
| 研修室       | 12  | 309   | 12  | 430   | 4   | 105 | 6  | 290 | 7  | 273   | 9  | 442   |
| 会議室       | 13  | 276   | 15  | 498   | 3   | 56  | 8  | 313 | 18 | 467   | 8  | 121   |
| 工芸室       | 3   | 145   | 13  | 539   | 4   | 90  | 1  | 18  | 3  | 76    | 6  | 276   |
| 陶芸室       | 1   | 10    | 4   | 23    | 0   | 0   | 0  | 0   | 2  | 17    | 5  | 40    |
| 緑のホール     | 4   | 137   | 16  | 837   | 3   | 115 | 5  | 300 | 6  | 440   | 7  | 625   |
| アトリエ      | 2   | 50    | 0   | 0     | 1   | 5   | 1  | 15  | 1  | 8     | 1  | 100   |
| 調理室       | 1   | 30    | 0   | 0     | 1   | 6   | 0  | 0   | 1  | 8     | 1  | 16    |
| 生活体験館     | 3   | 43    | 0   | 0     | 3   | 80  | 0  | 0   | 0  | 0     | 1  | 16    |
| 市民ギャラリー   | 0   | 0     | 0   | 0     | 0   | 0   | 0  | 0   | 0  | 0     | 0  | 0     |
| エントランスホール | 1   | 100   | 0   | 0     | 0   | 0   | 0  | 0   | 0  | 0     | 0  | 0     |
| 展示ホール     | 0   | 0     | 0   | 0     | 3   | 6   | 0  | 0   | 0  | 0     | 0  | 0     |
| 計         | 40  | 1,100 | 60  | 2,327 | 22  | 463 | 21 | 936 | 38 | 1,289 | 38 | 1,636 |

施設の利用回数・人数には文化の森の主催行事は含みません。

1つの団体が同じ日に2つ以上の施設を利用している場合は両方の施設で人数をカウントしてあります。また、同じ団体が同じ日に午前・午後・夜間の区分のうち、2つ以上の区分を利用している場合は、当該団体としての利用回数は1回としてカウントしています。

### 3. 視察状況

(上段：回数、下段：人数)

|     | 行政関係 | 教育・学校関係 | 文化の森関係 | その他   | 合計    |
|-----|------|---------|--------|-------|-------|
| 5月  | 2回   | 3回      | 5回     | 5回    | 15回   |
|     | 17人  | 86人     | 108人   | 151人  | 362人  |
| 6月  | 2回   | 2回      | 1回     | 5回    | 10回   |
|     | 9人   | 11人     | 1人     | 94人   | 115人  |
| 7月  | 4回   | 6回      | 0回     | 6回    | 16回   |
|     | 73人  | 298人    | 0人     | 222人  | 593人  |
| 8月  | 6回   | 2回      | 0回     | 2回    | 10回   |
|     | 104人 | 45人     | 0人     | 50人   | 199人  |
| 9月  | 2回   | 0回      | 0回     | 5回    | 7回    |
|     | 14人  | 0人      | 0人     | 199人  | 213人  |
| 10月 | 5回   | 5回      | 0回     | 6回    | 16回   |
|     | 32人  | 90人     | 0人     | 129人  | 251人  |
| 11月 | 5回   | 4回      | 0回     | 9回    | 18回   |
|     | 144人 | 71人     | 0人     | 264人  | 479人  |
| 12月 | 3回   | 3回      | 0回     | 6回    | 12回   |
|     | 44人  | 58人     | 0人     | 205人  | 307人  |
| 1月  | 2回   | 1回      | 0回     | 1回    | 4回    |
|     | 52人  | 30人     | 0人     | 18人   | 100人  |
| 2月  | 0回   | 3回      | 0回     | 1回    | 4回    |
|     | 0人   | 80人     | 0人     | 6人    | 86人   |
| 3月  | 0回   | 1回      | 0回     | 1回    | 2回    |
|     | 0人   | 25人     | 0人     | 100人  | 125人  |
| 計   | 31回  | 30回     | 6回     | 47回   | 114回  |
|     | 489人 | 794人    | 109人   | 1438人 | 2830人 |

※行政関係には、官公庁職員、県市町村議会など。

教育・学校関係には、教職員（小中学校、保育園）の研修、家庭教育学級など。

文化の森関係には、文化の森に関わりのあるボランティアなどの団体・関係者など。

その他には、自治会関係者、民生児童委員、マスコミ関係者、サークルなど上記の3区分に含まれない団体等をさす。

#### 4. 来館者アンケートの結果

みのかも文化の森では、企画展開催時に来館者アンケートを実施しました。本結果は、下記の日程でおこなった来館者アンケートの4回分をまとめたものです。

##### ・実施日と開催中の企画展名

|                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 平成12年10月28日～10月29日 | 「芸術と自然」展           |
| 平成12年11月8日～11月19日  | 「村絵図と日本図」展         |
| 平成12年12月23日～12月24日 | 「高島純」展             |
| 平成13年2月10日～2月11日   | 「親子の対話 岡本一平・岡本太郎」展 |

##### ・アンケート結果

総配布数 672 枚、 総回収数 235 枚、 総回収率 35.0 %

- |  |  |
|--|--|
| <p>1. どちらからお越しですか？</p> <p><input type="checkbox"/> 美濃加茂市内 97名</p> <p><input type="checkbox"/> 市外（県内） 109名</p> <p><input type="checkbox"/> 岐阜県外 15名</p> <p><input type="checkbox"/> 不明 3名</p> <p>2. あなたの年齢は？</p> <p><input type="checkbox"/> ～20歳 20名</p> <p><input type="checkbox"/> ～30歳 30名</p> <p><input type="checkbox"/> ～40歳 31名</p> <p><input type="checkbox"/> ～50歳 54名</p> <p><input type="checkbox"/> ～60歳 17名</p> <p><input type="checkbox"/> 60歳以上 65名</p> <p>3. あなたの性別は？</p> <p><input type="checkbox"/> 女性 132名</p> <p><input type="checkbox"/> 男性 97名</p> <p><input type="checkbox"/> 不明 6名</p> <p>4. 文化の森までどのように来られましたか？（交通手段について、複数回答可）</p> <p><input type="checkbox"/> 自動車 208名</p> <p><input type="checkbox"/> 鉄道 10名</p> <p><input type="checkbox"/> コミュニティバス 2名</p> <p><input type="checkbox"/> 駅から徒歩 6名</p> <p><input type="checkbox"/> 自転車 8名</p> <p><input type="checkbox"/> その他 4名</p> <p><input type="checkbox"/> 不明 2名</p> <p>5. どなたと来館されましたか？</p> <p><input type="checkbox"/> 一人で 36名</p> <p><input type="checkbox"/> 家族で 143名</p> <p><input type="checkbox"/> 友人と 40名</p> <p><input type="checkbox"/> その他 14名</p> <p><input type="checkbox"/> 不明 3名</p> | <p>6. みのかも文化の森を何でお知りになりましたか？（複数回答可）</p> <p><input type="checkbox"/> 友人などから 66名</p> <p><input type="checkbox"/> 文化の森の刊行物から 104名</p> <p><input type="checkbox"/> 新聞や雑誌などから 44名</p> <p><input type="checkbox"/> インターネットから 0名</p> <p><input type="checkbox"/> 他の博物館で 3名</p> <p><input type="checkbox"/> その他 37名</p> <p><input type="checkbox"/> 不明 3名</p> <p>7. 何回目のご来館になりますか？</p> <p><input type="checkbox"/> 初めて 160名</p> <p><input type="checkbox"/> 2回目 44名</p> <p><input type="checkbox"/> 3～5回目 23名</p> <p><input type="checkbox"/> 6回目以上 3名</p> <p><input type="checkbox"/> 不明 3名</p> <p>8. 今日はどのような目的でお越しになりましたか？（複数回答可）</p> <p><input type="checkbox"/> 展示（常設・美術工芸・民俗）を見るため 92名</p> <p><input type="checkbox"/> 企画展を見るため 84名</p> <p><input type="checkbox"/> 催事や講座に参加するため 16名</p> <p><input type="checkbox"/> 情報コーナーの利用 6名</p> <p><input type="checkbox"/> 研修や旅行のコース 6名</p> <p><input type="checkbox"/> 森で遊ぶため 9名</p> <p><input type="checkbox"/> 喫茶店を利用するため 9名</p> <p><input type="checkbox"/> 教育センターへ 1名</p> <p><input type="checkbox"/> 館内施設の利用 3名</p> <p><input type="checkbox"/> 新しい施設を一度見学するため 72名</p> <p><input type="checkbox"/> その他 6名</p> <p><input type="checkbox"/> 不明 6名</p> |
|--|--|



9. 受付スタッフの対応について

|                              |      |
|------------------------------|------|
| <input type="checkbox"/> 良い  | 138名 |
| <input type="checkbox"/> ふつう | 87名  |
| <input type="checkbox"/> 悪い  | 0名   |
| <input type="checkbox"/> 不明  | 4名   |

10. 職員やボランティアの対応など

|                              |      |
|------------------------------|------|
| <input type="checkbox"/> 良い  | 124名 |
| <input type="checkbox"/> ふつう | 85名  |
| <input type="checkbox"/> 悪い  | 2名   |
| <input type="checkbox"/> 不明  | 4名   |

11. 展示についてお聞かせください。

11-1. どの展示をご覧になりましたか？ご覧になられたすべての展示に印をお願いします。

|  |      |
|--|------|
| <input type="checkbox"/> 企画展                 | 137名 |
| <input type="checkbox"/> 常設展                 | 100名 |
| <input type="checkbox"/> 美術工芸                | 73名  |
| <input type="checkbox"/> 民具展示（生活体験館・まゆの家も含む） | 63名  |

11-2. その展示では、どのように感じられましたか？

- ・引き出しの標本がリファレンスとして活用されるといいですね。
- ・郷土を大切にしていこうという心が伝わります。
- ・入口と出口は別にした方がよい。（一周してもとの入口に出られるようにしてもよい）
- ・すばらしかった。
- ・展示作品の数が少ないと思いました。もう少し見応えのある内容を期待していた。
- ・もう少し本物のように古い家等だったらもっと素晴らしく思う。
- ・ガラスケースの中の作品の説明書きが小さくて、読みにくい。
- ・見やすい展示でゆっくりゆったりとした時間を過ごすことができ、来館させてもらって良かった。
- ・体験してみるのが多くほしい。
- ・自然分野から人文分野までコンパクトにまとめられていて分かりやすい展示だと思います。
- ・学芸員の方が説明してくれた。親切で良かった。
- ・子どもたちでも楽しめそうなワークシートが良い発想だと思った。
- ・企画展は興味を引いた。
- ・標本をじっくり見られるよう机といすがほしかった。

（主な意見を抽出）

12. 今回の企画展を何でお知りになりましたか？

|   |     |
|---|-----|
| <input type="checkbox"/> 以前文化の森で                        | 9名  |
| <input type="checkbox"/> 友人などから                         | 30名 |
| <input type="checkbox"/> 文化の森ニュースなどから                   | 57名 |
| <input type="checkbox"/> 新聞や雑誌などから                      | 33名 |
| <input type="checkbox"/> インターネットから                      | 1名  |
| <input type="checkbox"/> 他の博物館で                         | 2名  |
| <input type="checkbox"/> 今日入館して                         | 36名 |
| <input type="checkbox"/> その他<br>（NHK ラジオ、家族、職員、研究会などから） | 10名 |
| <input type="checkbox"/> 不明                             | 36名 |

13. 今回の企画展についてのご意見をお願いします。

- ・企画展の入場料について。少し高い。
- ・展示作品の数が少ないと思いました。もう少し見応えのある内容を期待していた。
- ・展示を見て。岡本一平・太郎など有名な人が自分の身近にいたことに、誇りが持てた思いがする。
- ・作品説明で一つ一つの釈文があればなお実感的にみる事ができたと思います。
- ・展示室内の照明を明るくして欲しい。
- ・本物を見て感動した。
- ・地方ではふれられないもの（本物）を感じます。
- ・こうした小さな都市の企画展だけに資料を観察しやすく工夫することが出来たらと思います。その点で蜂屋の地図の展示は見やすいものでした。
- ・出来るだけ近くでみえるよう工夫してください。

（主な意見を抽出）

14. みのかも文化の森へのご意見、ご要望をお聞かせください。

- ・案内看板が少なく、迷ってしまった。とてもいいところなのですが、もっと分かりやすくこれるようにしてもらいたい。
- ・自然の中で素晴らしい建物に感動。来館して満足。ゆかの温かさで心があたたまりました。
- ・素晴らしい施設です。気軽に利活用できるようもっとPRを・・・。
- ・展示について。分野ごとに詳しい内容の展示が欲しい。

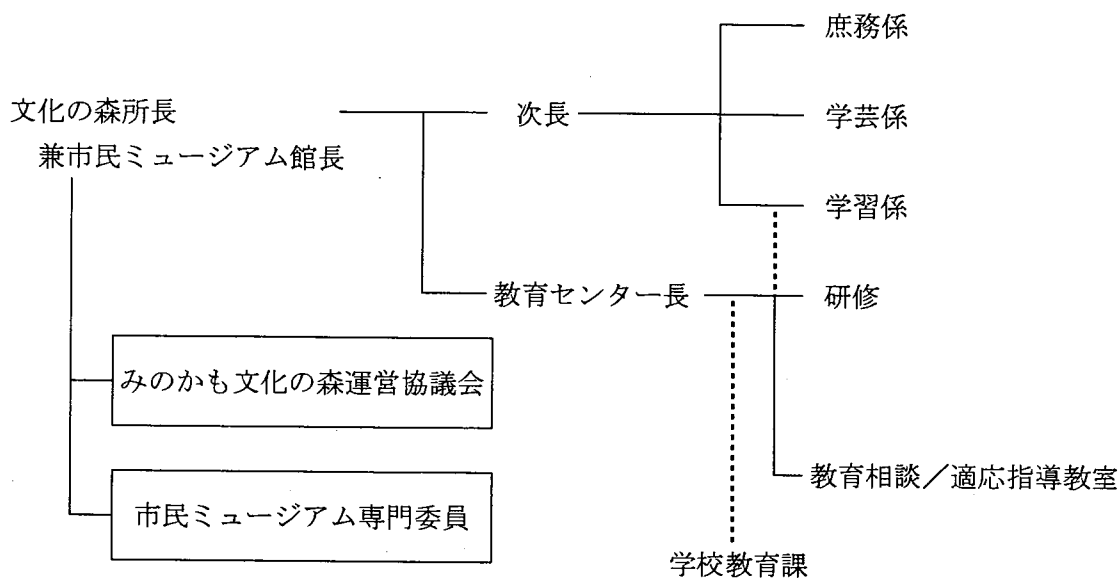
（主な意見を抽出）

## ■広報活動の記録

平成12年度中に掲載された主な新聞・雑誌についてのまとめ

|            | 掲載紙面             | 掲載号・日時         | 掲載内容               |                 |
|------------|------------------|----------------|--------------------|-----------------|
| 新聞         | 中日新聞             | 2000.8.31      | 文化の森の紹介            |                 |
|            |                  | 2000.9.29      | 文化の森オープンについて       |                 |
|            |                  | 2000.9.30      | 文化の森の紹介            |                 |
|            |                  | 2000.10.2      | 文化の森の紹介            |                 |
|            |                  | 2000.10.3      | 森バスについて            |                 |
|            |                  | 2000.10.12     | 文化の森学校活用1回目        |                 |
|            |                  | 2000.10.22     | 「自然を考える対談」記事       |                 |
|            |                  | 2000.11.10、15  | 村絵図展               |                 |
|            |                  | 2000.12.10     | 津田左右吉賞発表会の様子       |                 |
|            |                  | 2000.12.12     | 高島純講演会、高島純展        |                 |
|            |                  | 2001.2.5       | 開館4ヶ月：学校活用の様子      |                 |
|            |                  | 2001.2.8、10    | 岡本一平・太郎展           |                 |
|            |                  | 2001.2.15      | 夕刊：「美術館博物館の催し」に岡本展 |                 |
|            |                  | 2001.2.17      | 岡本敏子氏 来文           |                 |
|            |                  | 2001.2.18      | 岡本展開連事業の清水勲氏の講演会   |                 |
|            |                  | 朝日新聞           | 2000.12.21         | 文化の森学校活用の様子     |
|            |                  |                | 2001.2.3           | 岡本一平・太郎展 展覧会の紹介 |
|            |                  | 岐阜新聞           | 2000.2.20          | 文化の森建設途中の様子     |
|            | 2000.7.2         |                | 文化の森施設紹介           |                 |
|            | 2000.9.29        |                | 文化の森オープン           |                 |
|            | 2000.9.30        |                | 文化の森オープン           |                 |
|            | 2000.10.2        |                | 文化の森の紹介            |                 |
|            | 2000.10.13       |                | お月見コンサート紹介         |                 |
|            | 2000.10.17       |                | 山口啓介ワークショップ        |                 |
|            | 2000.10.22       |                | 文化の森オープニング当日の様子    |                 |
|            | 2000.12.2        |                | 高島純展・講演会           |                 |
|            | 2000.12.2        |                | 文化の森での学校活用の様子      |                 |
|            | 2000.12.10       |                | 津田左右吉賞の発表会         |                 |
|            | 2000.12.10       |                | 文化の森での国際交流の催し      |                 |
|            | 2001.2.9、18、3.13 |                | 岡本一平・太郎展 展覧会の紹介    |                 |
|            | 2001.3.23        |                | 市内中学校からのカルタの寄贈について |                 |
|            | 毎日新聞             | 2001.2.11      | 岡本一平・太郎展 展覧会の紹介    |                 |
|            | テレビ・ラジオ          | 岐阜放送           | 2000.10.24         | あなたの街から         |
| 2000.11.10 |                  |                | みの・ひだ愛ランド          |                 |
| 東海ラジオ      |                  | 2000.10.12     | 文化の森オープン           |                 |
| 岐阜ラジオ      |                  | 2000.8.13      | 文化の森オープン           |                 |
| ZIP-FM     |                  | 2000.11.14     | 文化の森の催しの案内         |                 |
| 雑誌         | ぴあ               | No.312         | 文化の森の紹介            |                 |
|            |                  | No.313         | 芸術と自然展             |                 |
|            |                  | 2001.2.26      | 岡本一平・太郎展           |                 |
|            | ケイコとマナブ          | 2000.12.2      | 文化の森施設紹介           |                 |
|            | キャラコママ           | 2000.10月号      | 付帯施設を中心に文化の森の紹介    |                 |
|            |                  | 2000.12月号      | 高島純展               |                 |
|            |                  | 2001.3月号       | 岡本展紹介              |                 |
|            | KELLY            | 2000.4月号       | 建設途中の文化の森          |                 |
|            | 近代建築             | 2000.9 vol.54  | 文化の森の建築について        |                 |
|            | タウン情報岐阜          | 2000.9.25 発刊   | 館の紹介と催し案内          |                 |
|            | 岐阜ウォーカー          | 2000.10 No.21  | 文化の森の紹介            |                 |
|            | CHEEK            | 2000.11月号      | 文化の森の紹介            |                 |
|            |                  | 2001.4月号       | 岡本展紹介              |                 |
|            | gallery          | 2000.vol.10    | 市民ミュージアムのオープンについて  |                 |
|            | REXJOURNAL       | 058号           | 文化の森紹介             |                 |
|            | AM BUSINESS      | No.34          | 文化の森の紹介            |                 |
|            | サイアス             | 2000.11月号      | 芸術と自然展             |                 |
| その他        | 地域創造レター          | 2000.9.25 10月号 | 文化の森の紹介            |                 |
|            |                  | 2001.1.25 2月号  | 岡本一平・太郎展           |                 |

## ■みのかも文化の森の組織図



## ■利用案内

開館時間 9:00 ～ 17:00 (ただし、催事等があるときにはその部分のみ 22:00 まで開館)

休館日 市民ミュージアム 毎週月曜日、第4火曜日、年末年始

教育センター 土・日曜日、祝日、年末年始

(ただし、教育相談は土・日曜日、祝日も実施)

駐車場 北駐車場 10 台、東駐車場 54 台、南駐車場 110 台

交通 鉄道/JR 名古屋駅から美濃太田駅まで特急で 40 分

美濃太田駅北口から徒歩約 17 分

自動車/名神高速小牧 IC から約 35 分

中央自動車道多治見 IC から約 35 分

## ■ 条例

### みのかも文化の森の設置及び管理に関する条例

平成 12 年 3 月 27 日  
条 例 第 6 号

(設置)

第 1 条 本市の生涯学習振興のため、学校教育及び社会教育の融合を図りながら、地域の自然、歴史及び文化に関する市民の理解と認識を深め、主体的な学習及び文化活動の場として、みのかも文化の森(以下「文化の森」という。)を設置する。

(名称及び位置)

第 2 条 文化の森の名称及び位置は、次のとおりとする。

| 名 称      | 位 置                       |
|----------|---------------------------|
| みのかも文化の森 | 美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3 2 9 9 番地の 1 |

2 文化の森に、次の施設を置く。

- (1) 美濃加茂市民ミュージアム(生活体験館及び付属施設を含む。)
- (2) 美濃加茂市教育センター

(事業)

第 3 条 文化の森は、次に掲げる事業を行う。

(1) 地域の自然、歴史及び文化的資料(以下「資料」という。)を収集し、若しくは保存し、又は展示すること。

- (2) 資料に関する調査研究及び教育普及活動を行うこと。
- (3) 市民の学習活動又は文化創作活動を支援すること。
- (4) 学校教育活動と連携を図りながら、学習活動の場を提供すること。
- (5) 教職員の研修及び教育相談を行うこと。

(6) その他美濃加茂市教育委員会(以下「教育委員会」という。)が必要と認める事業

(職員)

第 4 条 文化の森に、所長を置く。

- 2 美濃加茂市民ミュージアムに、館長その他必要な職員を置く。
- 3 美濃加茂市教育センターに、センター長その他必要な職員を置く。

(観覧料)

第 5 条 常設展示室、美術工芸展示室及び企画展示室の観覧料は、教育委員会が特に定めるものを除き、無料とする。

(使用の許可)

第 6 条 別表に掲げる施設(以下「許可施設」という。)を使用しようとする者は、あらかじめ教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前項の規定により許可施設を使用するときは、その用途が第 3 条に規定する事業にふさわしいものでなければならない。

(使用の許可制限)

第 7 条 教育委員会は、次の各号の一に該当するときは、許可施設の使用を許可しない。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれがあると認めるとき。
- (2) 営利を目的とした興業等に類する行為であると認めるとき。
- (3) その他許可施設を使用させることが適当でないと認めるとき。

(使用料)

第8条 第6条の許可を受けた者(以下「使用者」という。)は、別表に定める金額の合計額に1.03を乗じて得た額を使用料として納付しなければならない。ただし、使用料に10円未満の端数が生じた場合は、これを切り捨てた額とする。

- 2 教育委員会は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、使用料を減額又は免除することができる。
- 3 既納の使用料は、還付しない。ただし、教育委員会が特別な理由があると認めるときは、返還することができる。

(許可の取り消し)

第9条 教育委員会は、使用者が次の各号の一に該当すると認められるときは、許可を取り消し、又は使用の停止を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例に基づく規則に違反したとき。
  - (2) 管理上教育委員会が必要と認めて行う指示に従わないとき。
  - (3) 偽りその他不正な行為により使用の許可を受けたことが明らかになったとき。
  - (4) 前各号に掲げる場合のほか、教育委員会が特に必要と認めるとき。
- 2 前項の規定の適用によって使用者が損害を受けることがあっても、教育委員会は、その賠償の責めを負わない。

(秩序維持)

第10条 教育委員会は、次の各号の一に該当すると認めるときは、施設内への入場を禁止し、又は退去を命ずることができる。

- (1) 公の秩序又は善良な風俗を乱すおそれのあるとき。
- (2) 施設内の設備、備品、資料等を損壊したり、又はそのおそれのあるとき。
- (3) その他施設の管理上支障のあるとき。

(損害賠償)

第11条 使用者その他文化の森の利用者は、文化の森の施設、設備等に損害を与えたときは、その損害を賠償しなければならない。

(運営協議会)

第12条 文化の森の運営に指導又は助言を得るため、みのかも文化の森運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

- 2 協議会は、委員10人以内で組織し、委員は教育委員会が委嘱する。
- 3 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(市民ミュージアム専門委員)

第13条 美濃加茂市民ミュージアムの運営について専門的な指導又は助言を得るため、美濃加茂市民ミュージアム専門委員(以下「専門委員」という。)を置く。

- 2 専門委員の定数は5人以内とし、教育委員会が委嘱する。
- 3 専門委員の任期は、2年とする。

(委任)

第14条 この条例で定めるもののほか必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、平成12年4月1日から施行する。ただし、第6条第1項に規定する許可施設の使用に関する部分は、平成12年10月1日から施行する。

別表（第6条及び第8条関係）

(1) 研修室等

| 施設 \ 使用時間 | 9:00<br>～ 12:30 | 13:00<br>～ 17:00 | 17:30<br>～ 22:00 | 9:00<br>～ 22:00 | 延 長<br>1時間につき |
|-----------|-----------------|------------------|------------------|-----------------|---------------|
| 研 修 室     | 2,400 円         | 2,800 円          | 2,800 円          | 8,000 円         | 1,200 円       |
| 会 議 室     | 1,200 円         | 1,400 円          | 1,400 円          | 4,000 円         | 600 円         |
| 実 習 室 1   | 1,900 円         | 2,200 円          | 2,200 円          | 6,300 円         | 900 円         |
| 実 習 室 2   | 1,200 円         | 1,400 円          | 1,400 円          | 4,000 円         | 600 円         |
| 緑 の ホール   | 6,000 円         | 6,800 円          | 6,800 円          | 19,600 円        | 3,000 円       |

(2) 市民ギャラリー等

| 施 設       | 使用単位                     | 基本使用<br>(9:00～17:00) | 基本使用以外<br>(1時間につき) |
|-----------|--------------------------|----------------------|--------------------|
| 市民ギャラリー   | 全面使用                     | 16,000 円             | 2,500 円            |
|           | 分割使用 (1 m <sup>2</sup> ) | 64 円                 | 10 円               |
| エントランスホール | 1 m <sup>2</sup>         | 64 円                 | 10 円               |
| 展 示 ホール   | 1 m <sup>2</sup>         | 64 円                 | 10 円               |

(3) 宿泊アトリエ棟等

| 施 設        | 使用区分            | 使用料     |
|------------|-----------------|---------|
| 宿泊アトリエ棟 2F | 全日 (9:00～翌9:00) | 4,000 円 |
| 宿泊アトリエ棟調理室 | 1日 (9:00～22:00) | 2,000 円 |
| 生活体験館      | 1日 (9:00～22:00) | 4,000 円 |

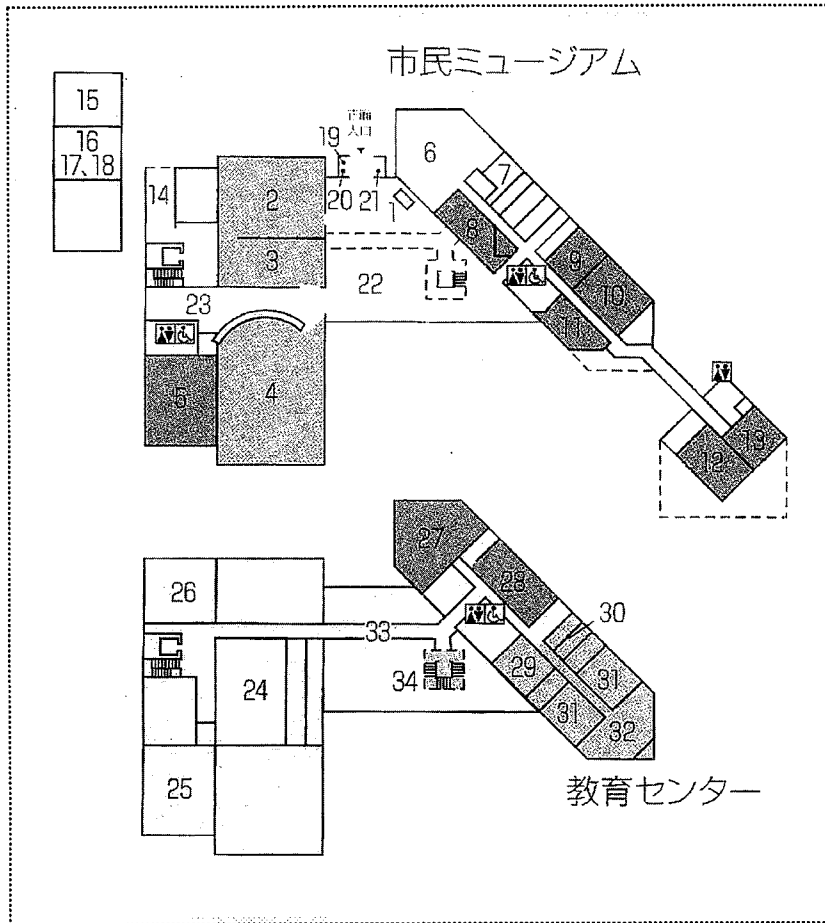
備考

- 1 使用時間を算定する場合において1時間未満の端数が生じたときは、これを1時間に切り上げるものとする。
- 2 付属設備及び備品の使用料は、別に規則で定めるものとする。
- 3 使用者が使用するに当たり、参加者から入場料を1人につき1,000円以上徴収する場合は、使用者から本表に定める使用料の額の2倍の額に相当する額を徴収するものとする。

## ■建築概要

|          |                          |                     |      |
|----------|--------------------------|---------------------|------|
| 建築物名称    | みのかも文化の森                 |                     |      |
| 所在地      | 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋 3299 -- 1 |                     |      |
| 森の面積     | 約9ヘクタール                  |                     |      |
| 敷地面積     | 27,560 m <sup>2</sup>    |                     |      |
| 建築面積     | 3,725 m <sup>2</sup>     |                     |      |
| 延床面積     | 5,879.21 m <sup>2</sup>  |                     |      |
| 階数       | 2階                       |                     |      |
| 最高高さ     | 141.5メートル                |                     |      |
| 構造       | 鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、木造       |                     |      |
| 建築主      | 美濃加茂市                    |                     |      |
| 建築設計     | 株式会社                     | 日建設計                |      |
| 展示設計     | 株式会社                     | 日展                  |      |
| 監理       | 株式会社                     | 日建設計                |      |
| 施工       | 建築                       | フジタ・東海建設特定建設工事共同企業体 |      |
|          | 展示                       | 株式会社                | 日展   |
|          | 電気設備                     | 中部電業                | 株式会社 |
|          | 管・空調設備                   | 戸島工業                | 株式会社 |
| セキュリティ設備 | 防犯システム                   | セコム                 | 株式会社 |

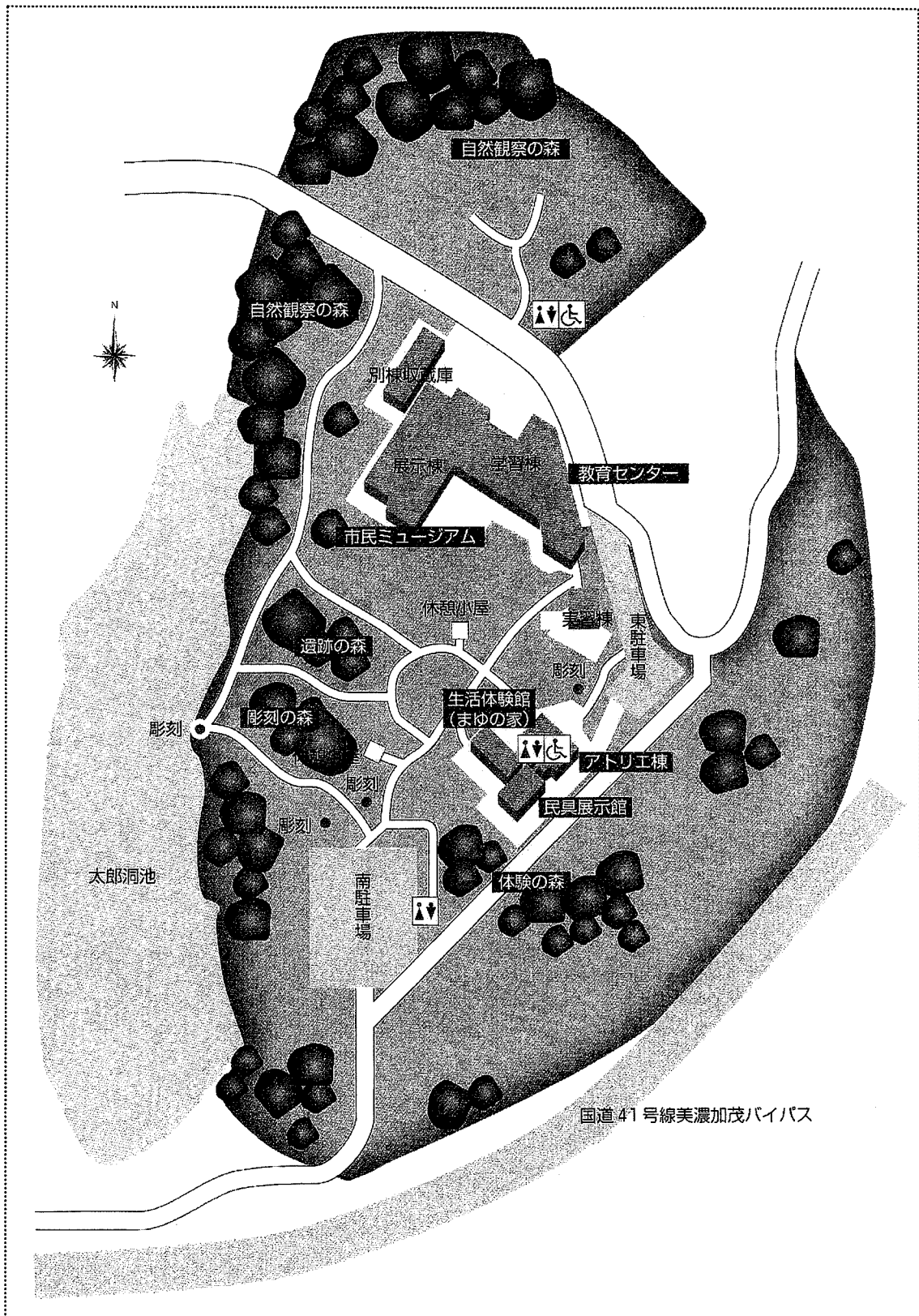
本館平面図



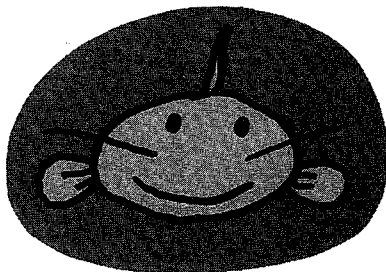
- |    |   |    |  |
|----|---|----|--|
| 1F | <ul style="list-style-type: none"> <li>1. 総合案内・ミュージアムショップ</li> <li>2. 企画展示室・市民ギャラリー</li> <li>3. 美術工芸展示室</li> <li>4. 常設展示室</li> <li>5. 緑のホール</li> <li>6. 事務室</li> <li>7. ボランティア室</li> <li>8. 情報コーナー</li> <li>9. 会議室</li> <li>10. 研修室</li> <li>11. ティールーム</li> <li>12. 工芸室</li> <li>13. 陶芸室</li> <li>14. トラックヤード</li> <li>15. バス車庫</li> <li>16. 整理室</li> <li>17. 収蔵庫(3) [地下1F]</li> <li>18. 収蔵庫(4) [地下2F]</li> <li>19. 公衆電話</li> <li>20. コインロッカー</li> <li>21. かさ立て</li> <li>22. エントランスホール</li> <li>23. 展示ホール</li> </ul> | 2F | <ul style="list-style-type: none"> <li>24. 収蔵庫(1)</li> <li>25. 収蔵庫(2)</li> <li>26. 学芸員室</li> <li>27. 情報学習室</li> <li>28. 研究室</li> <li>29. 教育相談事務室</li> <li>30. 教育相談室</li> <li>31. 学習室</li> <li>32. プレイルーム</li> <li>33. ブリッジ</li> <li>34. 森のタワー</li> </ul> |
|----|---|----|--|



森の全体図



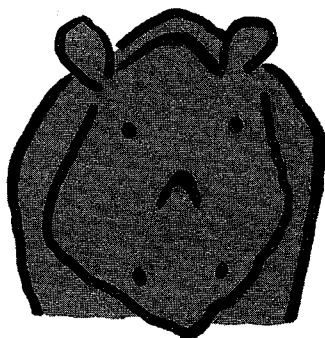
## ■イメージキャラクター



### ネコギギ

美濃加茂市内の川浦川流域に生息する  
国の天然記念物。

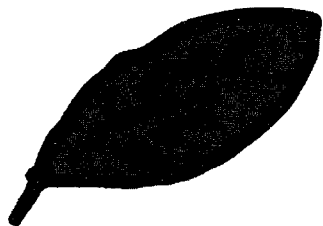
現在も元気に生息中。



### カニサイ

木曾川河畔で発見された骨や足跡の化石  
から復元された太古の大型ほ乳動物。

現在は生息しない。



### 葉っぱ

博物館周辺の木々のイメージ。  
葉の種類は特定していない。

現在も穏やかにすくすくと成長中。

キャラクターデザイン/高畠 純 氏(絵本作家)

## みのかも文化の森 年報

(平成12年度)

編集・発行 みのかも文化の森

2002年3月26日

〒505-0004 岐阜県美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1

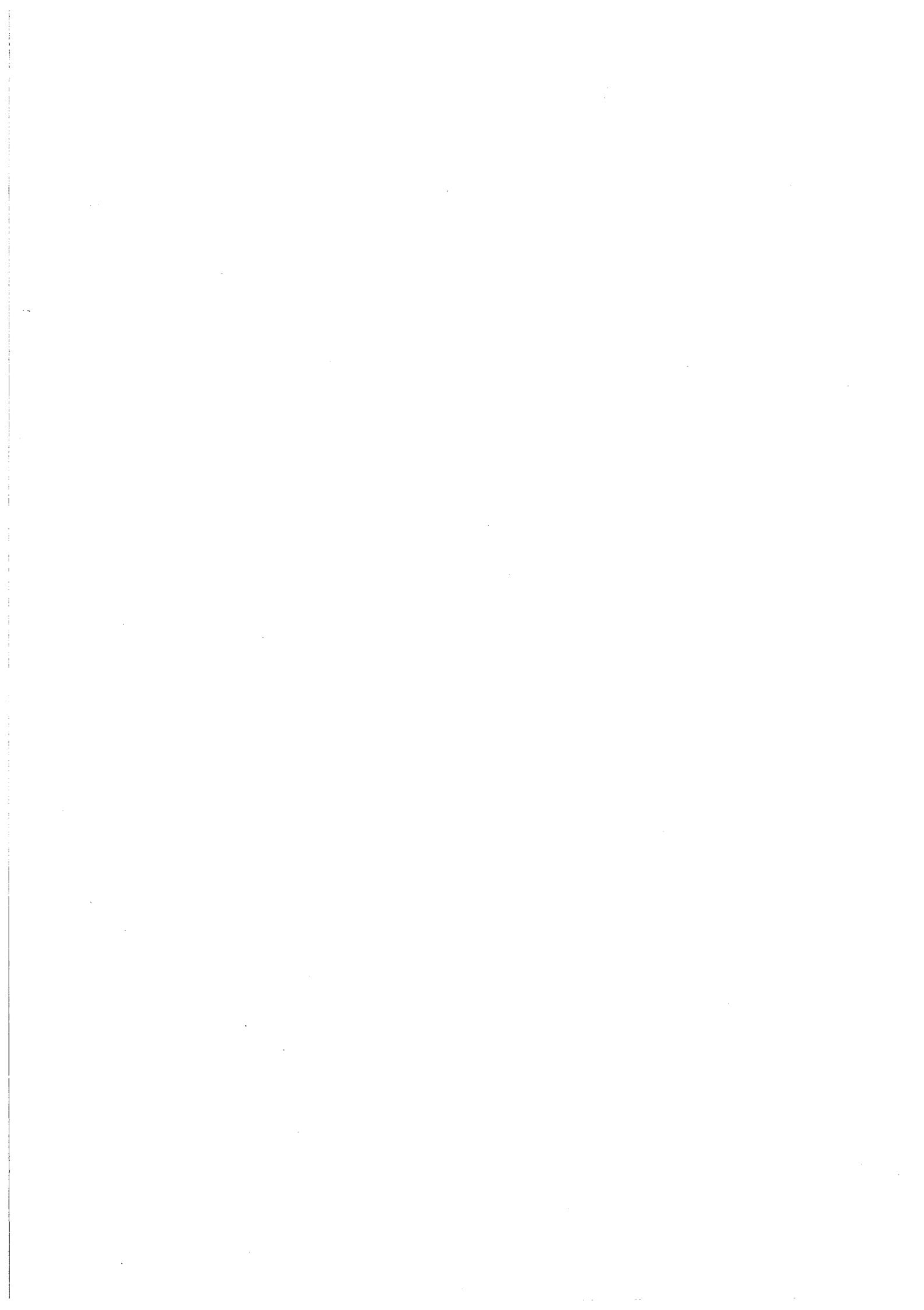
電話 0574-28-1110

FAX 0574-28-1104

<http://www.forest.minokamo.gifu.jp/>

印刷 サンメッセ株式会社







みのかも文化の森